新会長に齋藤英四郎氏（新日鉄社長）迎う

日本協会は、4月7日午後、東京渋谷の体協記者クラブで、新会長に、齋藤英四郎新日本製鉄社長を迎えたと発表した。第6代会長にあたる。

記者発表は、新たに日本協会顧問となった田村正衛前会長と荒川清美理事長によって行われた。

◇　◇　◇

スピーディな後任決定であった

43年以来、4期半にわたって会長をつとめられた田村氏が「新時代の到来を期するため」今春の任期満了を機に勇退したいとされたのが2月20日の全国代議員会。

それからわずか1カ月余で、しかも〝大物会長〟を迎えたのである。

齋藤会長とのパイプ役は、林達夫副会長（全日本実連会長、大同特殊鋼相談役）。

齋藤氏以外に候補者をあげず、新日鉄—大同の線を使っての説得と伝えられる。

3月上旬、林副会長、荒川理事長が齋藤氏を訪ねて内諾を得、あとは代議員の承諾（文書）を得るなど日本協会内部の手つづきを経て、一気に就任へこぎつけた。

田村前会長は、かねてから日本ハンドボール界の将来の大計のため、スポーツに理解のある大企業の役員を会長に迎えたい、といわれており、林副会長は、この意を充分に受けての後任探しであり、交渉であったようだ。

世界屈指の企業といわれ、〝日本の顔〟ともいわれる新日本製鉄の総帥を会長に迎えて、日本ハンドボール界、日本ハンドボール協会に向けられる内外の視線は、いっそう強く厳しいものになろう。

球界あげて、努力と団結が期待される。

◇**齋藤英四郎会長略歴**　明治44年11月生れ・65才、東大出、今春1月新日鉄社長に就任。1m80をこす長身で、学生時代は100m11秒台の俊足をかい、数多くのスポーツを手がけられた、という。

荒川理事長JOC常任委員に

日体協理事にも返り咲く

日本協会・荒川清美理事長は4月13日のJOC（日本オリンピック委員会）総会で、常任委員に初選出された。

JOC常任委員は22名で、このうち競技団体選出は荒川氏ら6名。

任期は4年で一九八〇年(昭55)のモスクワオリンピックもその期間中にあたる。

荒川理事長は3月30日の日本体育協会評議員会で理事(任期2年)にも選任されている。荒川氏は48・49年度にいちど理事をつとめており返り咲き。定数35名で、このうちの9名が競技団体(39)選出。

会長就任にあたりて

齋藤英四郎

このたび日本ハンドボール協会会長の大役をお引き受け致しました。私自身を振り返ってみますと、最近では健康維持を兼ねて休日にゴルフを楽しむのが精々で、その他のスポーツはハンドボールも含めて、新聞・テレビを通じて接する程度で、すっかり縁遠くなってしまいました。それでも、かつてはひと通りスポーツは何でもこなし、しかも体が大きいこともあって割と得意とした方で中学、高校時代にはバスケットボールに熱中しておりました。こういったわけで、今回会長のお話がありました時も、かってのことなど、特に球技の楽しさなど懐しく想い出し、今後スポーツを通じて社会に何らかのお役に立てればと考えてお引き受け致したような次第です。

ハンドボールがわが国に紹介されたのは、大正十一年とのことですから、もう五十数年にも及ぶわけで、日本ハンドボール協会も今年で丁度創立四十周年を迎えるとのことであります。この間、ハンドボール愛好者は年々着実に増加するとともに、ミュンヘン、モントリオールと二度のオリンピックを経験し、女子は待望の入賞を果すなど、競技レベルも国際水準に近づいてまいりました。ハンドボールがこのように立派な発展を遂げ得たのも、全国各地のハンドボールマンの熱意と関係各位の努力の賜に他なりません。

このような先輩の努力の後を受け継ぎ、ハンドボールのより一層の普及に努めるとともに、広い裾野の上に立って競技レベルをヨーロッパ各国と比肩し得るところまで高めることが私どもの課題であろうと思います。

そして何よりも、一人でも多くの人がハンドボールを通じて、スポーツの楽しみを知り、社会生活が明るくなるようお役に立つならば、これに勝る喜びはありません。

皆様方の心からのご協力をお願いし、就任のご挨拶と致します。

荒川清美理事長６選、強化委員長は渡辺慶氏

日本協会は３月20日午前10時から東京渋谷の岸記念体育会館で昭和52，53年度新理事による初会合を開き，理事長に荒川清美氏（54才，日体大教授）を６選。“長期政権”となった荒川理事長は，ただちに新執行部の編成を行うとともに，執行部機構の改正を発表，専門委員会中心の組織拡充を大きく打ち出し，全理事を各セクションに配属した。復活する強化委員会の委員長には渡辺慶寿氏（41才，自治医大助教授，前技術部長）が推された。

組織としての活動へ新機軸打ち出す

会議は23名の新理事が出席して成立（定数33名以内、現在数31名うち辞退届提出中1、欠員2）。

まず、林達夫会長代行から2月20日の全国代議員会における副会長の選任（林、保坂、徳永各氏の留任）、体協、JOC(日本オリンピック委員会）派遣役員、監事など人事に関した報告があったあと田村正衛会長の任期満了にともなう勇退～以上本誌151号既報～新会長人選の中間報告などが行われた。

副理事長制は見送り

つづいて注目の理事長選出に入ったが、荒川清美氏が、昨夏のモントリオール・オリンピック閉幕後から、「新時代を迎えるべき時が来ている」「球界総点検の必要」といった退陣のニュアンスをこめた発言をいくつかしていたこともあり、いつになく活発な意見がとびかった。

特定の〝政権〟が長期にわたることへの不安や、後進・若手の人材発掘などが説かれる場面もあったが、しだいに大勢は荒川氏留任を望むムードとなり、新人の推せんも具体的にはなく、荒川氏を満場一致で六選した。

一部の理事から、日本体協理事を兼ねる荒川氏の負担軽減を含めて副理事長制の採用が提案されたが、その必要なしとする空気が濃く見送られた。

「部」から「委員会」に改称

六選を受けた荒川氏は、改めて40年の歴史を刻んだ日本ハンドボール界が大きな転機に立たされていることを強調、従来の路線をただ踏襲するだけではなく、新しいステップを踏み出す決意を述べ、これまで以上に中央―地方間の流れをよくするため、懸案の執行部機構手なおしの用意を明らかにして、承認を受けた。

荒川理事長による新機構は別掲（下図）のとおりで、一、強化委員会の復活、一、「部」の名称を一切廃め「委員会」に統一する。一、全理事を各セクション（委員会）につかせる。一、常務理事会の濃縮。一、「40周年記念事業委」設置、の5点を大きな特色としている。

このうち、これまで常務理事主体で行ってきた各部(各委員会)の運営を、全理事が分散担当して行う、というのは、人中心の協会運営を組織主体に改めようとするもので〝前進〟である。

「各部(委)の権限を強化し、委員会の決定を日本協会の決定とする体制を確立したい」といい切る荒川理事長の発言の裏には、五選・10年の自信がうかがわれると同時に、将来の発展につながる基礎固めを、この任期中、一気に行なおうとする意欲が感じとれる。

理事長就任と同時に、これだけはっきりと、将来展望を明きらかにした例は過去にない。

全理事を各委員会に配属

理事の担務は、荒川理事長によって、パート別に配属され、会議後、各パート内の協議によって別表のようにまとまった。

荒川理事長の発表したパート別

人事は次のとおり。

◇競技委員会系　安藤、遠藤、藤田、伊藤、勝、森、大西、清水、富永

◇総務委員会系　入江、石切山光嶋、大野、越智、高橋、高田山田哲

◇渉外委員会　境井、田中

◇財務委員会　中沢、島田清、柳沢

◇編集委員会　古庄、杉山＝辞退届提出

◇理事長直轄・強化委員会　幸田渡辺、横地

◇同・広報委員会～理事長一任～

◇40周年記念事業特別委員会　嶋田新、柳井

（このほか入江、光嶋、中沢、高田、高橋、山田哲の6理事が兼任、競技委員会系からも2理事が加わる予定）

日本リーグへ徳永副会長ら

常務理事は、これまでのシステムを一変し、理事長補佐グループとしてのカラーを強め、「関東在住者を中心に6～8名としたい」とする荒川理事長の意向を容れ、安藤純光(競技委員会系)、大野金一(総務委員会系)、境井秀三（渉外委員会）、島田清史(財務委員会)の5氏を決めた。今後、2～3名の補充が予想される。なお、常務理事会はこれまでの月例制を廃め、不定期開催となるが、荒川理事長は「毎週招集もある」といっている

また、40周年記念事業特別委員会委員長と男女強化委員長は、随時、常務理事会に出席できるとされた。

競技委員会系の確立によって「3部合同会議」は解消、今後はテーマ別に技術委―企画委、渉外委―審判委といった新形式の合同会議を積極的に開くこととなった。

1名増の日本リーグ派遣委員は徳永副会長、安藤、山田稔の3氏が留任、新たに大野、島田(清)両氏

昭和52・53年度日本協会理事担務表（欠員3名）

理事長	荒川　清美（会長推）			
競技委員会	当担常務理事 安藤　純光（会長推）	・技術委員会担当理事	◎大西　武三	（会長推）
			森　恭一	（東北）
			富永　劲	（自衛隊連）
		・審判委員会担当理事	◎安藤　純光	（会長推）
			藤田　八郎	（九州）
			清水　正	（高体連）
		・普及指導委員会担当理事	◎勝　繁夫	（会長推）
			伊藤　和夫	（東海）
			遠藤　健次	（教職員連）
総務委員会	担当常務理事 大野　金一（会長推）	・企画委員会担当理事	◎山田　哲雄	（会長推）
			石切山捻治	（北海道）
			入江　暢一	（関東）
			越智　武	（四国）
			高橋　健夫	（教職員連）
		・会計委員会担当理事	◎光嶋　浩	（会長推）
		・40周年記念事業特別委員会担当理事	◎嶋田新太郎	（高体連）
			柳井　文治	（中国）
			中沢　重夫	（学連）
			高田日呂美	（会長推）
			□入江　暢一	
			□高橋　健夫	
			□光嶋　浩	
			□山田　哲雄	
		（競技委系から2名加入）		
渉外委員会	担当常務理事 境井　秀三（会長推）	・国際渉外担当理事	◎境井　秀三	（会長推）
			横地　宇吉	（実連）
		・国内事務担当理事	◎□高田日呂美	
			田中　秀夫	（学連）
財務委員会	担当常務理事 島田　清史（会長推）	・担当理事	柳沢　民弥	（北信越）
			□中沢　重夫	
編集委員会	担当常務理事 ～空　席～	・担当理事	古庄　昌雄	（自衛隊連）
理事長直轄機関 強化委員会	◎渡辺慶寿（会長推）	・担当理事	幸田　末之	（近畿）
			□横地　宇吉	
理事長直轄機関 広報委員会	～人選中～			
日本リーグ派遣委員			徳永　陸繁	（副会長）
			山田　稔	（実連）
			□大野　金一	
			□安藤　純光	
			□島田　清史	

・◎印は委員長，□印は兼任を示す。

・「40周年記念事業特別委員会」は53年3月31日まで。（嶋田，柳井理事はそのあと企画委員会担当理事になる予定）

「ハンドボール」

52年5月号（第152号）目次

【表紙写真】第1回アジア選手権表彰式。クウェート社会労働大臣からカップを受けるのは竹野全日本監督
（4月4日夜・クウェート）

が選任された。

新進・大西氏、ベテラン島田氏

新執行部人事で光彩を放つのは技術の大西氏と、財務の島田(清)氏である。

大西氏は30才、かつての全日本選手（第6回世界選手権代表）で東京教大卒業後は、母校のコーチ監督(現)として才腕を揮った。

これまで普及指導部委員会で、次々と新構想を実現させており、日本体協の公認コーチ制度とマッチングした技術指導大系をどのように推進させるか、若さにあふれた企画力、実行力に期待は大きい

対照的なのはベテランの島田（清）氏だ。

戦前の慶大黄金期を飾った名FW、荒川理事長とは昭和17年の日独対抗以来の仲という。

球友・西敏郎氏(前副会長)を失った荒川氏の懇望で執行部入り、日本協会の大命題・財政問題に取り組むほか、日本リーグの運営にもたずさわる。

審判、6期連続で安藤氏

ますます多様化する総務系のまとめ役に境井―大野の東大ペアがあたるのも注目される。

境井氏は国際渉外畑のキャリアが永く、実連で日韓交流を手がけていた横地氏とともにいっそうの充実が企られよう。

大野氏は、代議員制を全面的に採り入れた現・日本協会規約の草案者。

協会運営の命脈を握るという総務委員会をどう切り廻すか、4月内に予定される各専問委員会の編成が一つのポイントとなろう。

競技系3部は、大西氏登用のほかは、審判・安藤、普及指導・勝とリーダーは手固い人事。

安藤氏は、競技委員長という重要ポストのほか、これで六期連続してレフェリー・ソサイエティを握るわけで、完全にその活動を軌道へ乗せよう。

懸案の若手養成と国際進出も「JHAレフェリーコース」の開設などで、着々と手が打たれており担当理事もベテラン揃い。

勝氏は、昨年度の〝土曜の集い〟の成功を一つのバネに、課題山積の普及活動をどう展開していくかが、二期目のテーマだ。

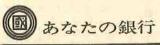
この日の会議でも、入江理事の「強化と普及の均衡」を強く望む発言がきっかけとなって、中学問題、クラブ問題などのほか「小学校教材への編入」(藤田理事)、それにともなう用具問題にまで議論が及んでいる。

オリンピック定着と、モントリオールでの男子9位、女子5位が一応の評価を得ている一方、この機を逃して普及の拡充は企れないとするムードが強いだけに、頂点に立つ勝―伊藤―遠藤トリオの動きは注目していい。

なお、先の代議員会で吉田正次郎氏とともに監事に推された入江暢一氏は、引きつづき関東選出の理事をつとめることが決まったため、改めて監事(1名)を選出しなおすとした。

昭和52年度日本協会行事予定

行事	期日	場所
△第6回日韓女子社会人交流	4月28日～5月5日	(韓国各地)
・第9回全日本自衛隊選手権	5月19日～5月22日	(東京駒沢)
△第5回実連会長杯女子実業団大会	6月10日～6月12日	(岐阜市)
・第2回日本リーグ前期（男女）	6月11日～7月17日	(各地で男女各28試合)
△第11回（女子第6回）日韓学生交流	6月16日～6月25日	(韓国各地)
・第28回全日本高校選手権	8月2日～8月7日	(山口市)
・第20回全日本教職員選手権	8月10日～8月13日	(長野県下)
・第16回IHFレフェリー講習会	8月13日～8月20日	(コペンハーゲン)
・第6回全国中学生大会	8月17日～8月19日	(茨城県麻生町)
・第4回全国高専選手権	8月下旬	(秋田県下)
△第11回（女子第4回）日韓高校交流	8月中～下旬＝予定	(韓国各地)
・第4回IHFトレーナー（コーチ）シンポジウム	9月4日～11日＝予定	(ポーランド)
・第27回（女子第9回）全日本学生選抜東西対抗	9月15日	(京都)
・第2回日本リーグ後期（男女）	10月9日～11月27日	(各地で男女各28試合)
・第32回国体ハンドボール競技	10月2日～10月7日	(青森県野辺地町)
・第9回世界男子選手権Aグループアジア地域予選	10月31日までに終了～詳細未発表	
・第20回（女子第13回）全日本学生選手権	11月7日～11月11日	(大阪)
・第29回全日本総合選手権	12月7日～12月11日	(東京体育館)
△第1回全日本実業団オールスター東西対抗（男女）	53年1月7，8日	(東京・名古屋)
・第9回世界男子選手権Aグループ	53年1月26日～2月5日	(デンマーク各地)
・日本ハンドボール協会創立40周年記念行事	53年2月4日または5日	(東京)
・第9回全国実業団男子トーナメント	53年2月9日～12日	(水戸市)
・第18回全日本実業団選手権	53年3月20日～24日	(名古屋)
・第1回全国高校選抜大会	53年3月26日～28日	(名古屋)

△印は加盟団体単独事業

強化担当 幸田、横地の両理事

4年ぶりに復活したのが強化委員会。

日本協会機構に、頂点強化専従のセクションが設けられるのは昭和43年10月〜45年3月の「選手強化対策本部」（本部長・荒川清美氏）、45年4月〜48年3月の「ミュンヘンオリンピック対策委員会」（委員長・村田弘氏）についでのもの。この二つはいずれもミュンヘンオリンピック（一九七二）に備え男子だけの活動だった。

48年4月から、女子強化を加えた新体制の「強化委員会」がスタートするハズであったが、どうしたわけか、うやむやのうちに消えてしまい、それ以後頂点強化の〝仕事〟は、技術部が受けもっていた。

荒川理事長は、昨夏のモントリオール・オリンピックで、各国の強化組織を見聞、専門部門の〝独立〟を痛感して、昨秋11月13、14日の全国会議（理事会、代議員会）でその意向を明きらかにし、承認をうけた。

日本体協が、組織をあげてオリンピックを目指しての選手強化事業を積極的、意欲的に進める方針を打ち出していたことも手伝ったが、荒川理事長としては、4年前にいちど流産させているだけに、モスクワ・オリンピック（一九八〇）を目標に今回は是非とも軌道へのせたいとの意気ごみがあった。

すでに昨秋以降、強化委の内容については、旧技術部に検討がゆだねられており、男子ヤング全日本をナショナルチーム監督の傘下におくなど、新たな発想を加えて別表のようにまとまった。

荒川理事長は「半永久的に常設しておく」と説明している。

男女強化の専問委は初

注目の強化委員長は、荒川理事長から渡辺慶寿氏が推せんされ、異議なく認められた。渡辺氏は48年7月から前期まで技術部長をつとめ、モントリオール対策を切りまわしてきた。

つづいて、荒川氏は、初めて女子強化事業を包含することや、メディカル、情報面など委員長一人が重要な職務をかぶりすぎるため補佐役として2名の担当理事を配置する了解を求め、幸田末之、横地宇吉の両氏を指名した。

この日の会議時点で、渡辺氏は勤務上の理由によって、会長推せん理事辞退の意志を伝え、欠席していたが、3月25日、重任をうけいれた。

強化担当となった三氏は3月30日東京で初会合を開き、日本体協競技力向上委の路線検討と、それにともなうシステム、スタッフの確立を早急に行うこととし、とりあえず、4月17日東京に球界内から数名の識者を集め、今後の強化方針について意見を聞くことになった＝本誌7頁参照

再び〝独立採算〟となった編集委員会は委員長に予定された杉山茂氏が会長推せん理事を辞退したため、人選が難行している。

法人化、前向きに検討へ

このほか、会議冒頭の挨拶に立った林達夫会長代行が「新会長を迎えるのを機に、かねてから研究を進めていた法人化へ、積極的に取り組みたい」と述べ、注目された。

日本体協に加盟している41競技団体のうち、すでに26団体が財団または社団法人として登録されているが、日本協会は、法人化した場合のメリットがあまりない、基金の不足などで、消極的にこの問題をとらえていた。

全国会議の席上、法人化が前向きに発言されたのは、今回が初めてだけに、今後のなりゆきが注目される。午後2時45分閉会。

日ソ交流お流れ

日ソ交流がまたしてもお流れになった――日本協会は、今年度の最大行事として、9月に各地でモントリオールオリンピックで金メダルを手中にしたソ連男女ナショナルチームとの国際試合を計画、昨秋以降折しょうをつづけていたが、4月1日、ソ連協会から「残念ながら招待を受け入れられない」旨の電報が届き、断念せざるを得なくなった。

◇　◇　◇

ソ連招待は、すでに15年近く日本協会が宿願としている計画で、今回こそ実現有望と伝えられていただけにショックは大きい。

日ソ交流は規定により、両国体協を通じて各競技一括して交渉しなければならず、ハンドボールはつねに、その段階で、ソ連側からはねられていた。

しかし、今年は初めて、2月17日付で「ハンドボール交流は両国協会の交渉に委せる」というソ連体協の回答があり、大きな前進とみられた。

すでに、荒川理事長が昨秋のIHF（国際ハンドボール連盟）総会時に、ソ連協会代表者と会って来日有望の感触を得ていたし、これまで、各種の国際大会などでソ連関係者から、日本チーム関係者はつねに「是非、日本へ呼んで欲しい」といわれており、ソ連体協の〝回答〟は「あとは、具体的な煮つめを――」というニュアンスに受けとれたのである。

日本協会では、4年前、ミュンヘンオリンピック優勝のユーゴスラビア（男子）を招いて、内外に大きな話題をまいており、金メダルチーム招へいを一つの看板にしようとしていただけに痛い。

来日できぬ理由は明きらかにされていない。

斉藤新会長

新会長・斉藤英四郎氏。田村前会長自から、バトンタッチは財界筋の大物に、といわれていたが、そのうえに〝超〟のつくかたを迎えた。

ある日本協会OBは「このような人を会長に迎えられるほど日本協会も成長したのだ」と手ばなしの喜びよう。

内外の反響も大きく、発表のあった翌日、体協内ではハンドボール界と新日鉄の結びつきが、ひとしきり話題にされた。

斉藤英四郎会長自身は多趣味、豪放磊落なかたで、30近い肩書きのなかに、これまでスポーツ関係のものが一つもないのが不思議なほど。

日本を代表する国際的スケールの大企業の社長というポストが、それを迎えた日本ハンドボール界にも、そのままはね返ってくるわけで日本協会としての責任はいっそう重くなり、組織としての拡充に、これまで以上の努力が必要である。斉藤会長は、早くも林副会長、荒川理事長との面談で、法人化を急ぐことを示唆された、と伝えられる。

ビジネスマンは見る目が厳しいし、打つ手も早い。

日本協会が、これまでのように個人の情熱をたよりに、私企業的な施策と、行動を繰り返していると、せっかくの新会長の意欲をフオローできずに終ろう。

新日鉄秘書課の話では、斉藤会長の毎日は、多忙を極め、ハンドボール界の行事に顔を出すことは年2～3回程度という。

それだけに、会長とのパイプ役をつとめることになる副会長、理事長、総務、競技両委員長などの動きも重要になってくる。

新機構の運用

注目される委員会の自主性強調

新しいスタートを前に①

6選された荒川理事長が、新理事会の席上打ち出した新機構（本誌2頁参照）は、日本協会を改めてスタートラインにつかせるという画期的なものだ。

荒川理事長は「これまでの5期10年間は、オーバーにいえば日本協会近代化の基礎づくり、第1期工事だった。

オリンピック定着という幸運も手伝って、その目標はかなり達成できたと思う。

これからは、その第2期だ。第1期工事の土台に立って、新たなスタートを切りたい」という。

実は、荒川氏自身は、田村会長同よう、前期で理事長の座を退く考えであった、といわれる。

「第1期（42～51年）の辛苦を知り、第2期の発展をまかせられる若手」が見当らなかったこともあるが、斉藤英四郎氏の〝内意〟を得ていた林副会長が、すべて新しくなることへの不安から、荒川氏留任を強く望んだようだ。

若手待望論もたしかにあるが、荒川氏自身まだ54才、〝第2期工事〟を軌道へ乗せるエネルギーは充分とみる。

新機構の特色は、なんといっても33理事（現在数30名）を、各専問委員会に振りわけ、名実ともに理事会を執行部にしようとしていることだ。

これまでは、常務理事会が執行いっさいをうけもち、全国理事会とは、時にバランスを失いかけた常務理事会が野党色の濃い国会ともいえる場面さえあった。

このマイナスを、一気になくそうとするのが、新・荒川構想であり、専門委員会の自主性、独立性を前面に押し出し「組織としての前進」を旗印に、総力あげて協会運営に取り組む姿勢が、強く浮き出ている。

このシステムが巧く動き出せば協会施策の一貫化が企れ、一人の担当者が不在だと、まったく、動きが止まってしまうといったこともなくなるし、後進の育成にも新たな手が編み出せる。

また、同一人がいくつものポストに顔を出し、すべて中途半端という弊も少くなるだろう。

常務理事会も、現時点では理事長を含め常時出席者は6名という小編成。これまでとは当然カラーが違ってくる。

少くとも、各部長の寄り合いといった従来の内容はなくなろう。

新しい波が起きつつある日本体協や、強いては国際スポーツ界の動きにどう対応するか、日本協会永遠のテーマである競技力向上と普及について、つねに新しい策の用意といったことが、その〝仕事〟になるハズだ。

また、未知の世界に足を踏みこまれた斉藤新会長のブレーンとしての期待も、新常務理事会にはかる。

ところで、新機構にまったく問題はないだろうか。

荒川理事長の〝新たな意欲〟からすれば、横たわる課題も乗り切れそうだが、専任制、責任分担制は一歩まちがうとセクショナリズムに落ちこむ。

タテの指令と行動は円滑になろうが、ヨコの連けい――各委員会間のコミュニケーションをよほど巧くしないと足並みがバラバラになる恐れがある。

〝一体感〟〝連帯感〟をどう芽生えさすかは今回の機構の運用でもとも難しい点だろう。

各委員会が何をしているか、何をこれからするのか、月に1回程度「委員長会議」などを招集してカバーするのもよいだろう。

また、各委員会に書記を置くことを義務づけているが、この議事録を集めて、これまでの常務理事会議事録に代え、月報化することも必要なのではあるまいか。

田村―荒川体制のこの数年間、毎回申し合わされながら守られなかったことがある。

「各部長は、最低週2回、事務局へ顔を出すか、電話をいれる」ということだ。

四方八方に散って、それぞれ活動していくような仕組みの新体制だけに、この申し合せは前よりも強く認識するべきであろう。

目標が大きいだけに、理事々々一人の心がまえはもちろんだが、手固い運用の手段をまず見つけ出して欲しい。

新しいスタートを前に②

〝完全独立〟した強化委員会

新体制の大きなポイントになっているのは、強化委員会の復活だ。

ミュンヘン・オリンピック（一九七二）を一つのきっかけとして日本協会の頂点強化対策は、大きな高まりをみせ、それまでの世界選手権出場などとは、まるきり異った姿勢を示した。

オリンピックムードが、日本ハンドボール界を、かなり大人（おとな）にしたわけで、それが、モントリオールにおける男子9位、女子5位（入賞）という成果につながったのだともいえる。

しかし、すべての体制が万全であったか、というと、これは卒直にいって、かなり〝危い橋〟を渡っている。

特に、強化対策スタッフと日本協会のラインは、あまりにも、変化が激しすぎた。

それは、頂点強化という重大テーマを預けているにも拘らず、強化スタッフの位置を、日本協会機構内で、単に専門委員会の一つにしか数えていなかったことに原因している。

このため、強化計画も、協会内の庶務事項も、会議のテーブルでは、同一レベルのものにすぎなかった。

せっかくの強化計画を、右から左に簡単にボツにしてしまうことも少なくなかった、と聞く。

強化担当者が常務理事であったばかりに、コーチ陣と執行部の板ばさみにあったケースも多かったと聞く。

外国の場合、ちょっとオーバーにいえば、本部協会(事務局)は、頂点強化のために存在するとさえいってもよい。

ナショナルチームの行動のための資金計画、事務一切が主たる業務なのだ。

当然、こうしたシステムを日本にも、という声がミュンヘン以降あがったのだが、日本協会はかえって、48年4月の人事改選期で、頂点強化事業を技術部（現・技術委）に吸収してしまった。

当時、田村会長、荒川理事長はこれを「国内技術大系一本化のため」と説明、支持をうけている。

だが、いくらスタッフを増やしたところで、技術部がナショナルチームの面倒をみていては、どこかにムリが生じる。

頂点強化事業に追われて、コーチ制度やトレーナー制度の整備が遅れ、テキストブックなどの補完作業も手がつけられない。

一方、日本体協やJOC（日本オリンピック委員会）も、昨年のインスブルック・オリンピック（冬季）以来、組織としての頂点強化に腰をあげ、各競技団体に、専従機関の設置を望む動きを示した。

内と外の、この二つの流れを受けて、荒川理事長は、昨夏、モントリオール・オリンピック直後、早々と「強化委員会」の復活を、新年度への最大の申し送り事項にすることを、常務理事会で明らかにした。

幸田男子、横地女子部長に

こうして生まれた強化委員会だ。今回は、晴れて（?）理事長直轄機関となり〝独立〟が大きく打ち出されている。（本誌5頁参照）

当初、委員長は理事長が兼任、強化委員会の決議――即決裁とする構想であったが、理事長の職務が多岐にわたりすぎるという荒川氏自からの〝判断〟もあって、前技術部長の渡辺慶寿氏が、初の大任をつとめることになった。

ワンクッションが置かれた印象もないではないが、荒川理事長は「強化委員会の自主性を強めるため、防波堤役にまわったと考えてくれればいい」と本誌の質問に答えており、円滑な運行を期待できる。

むしろ問題はスタッフの編成である。

渡辺委員長も「〝組閣〟を完了することが、最初の成果」として精力的に動き、まず、強化担当理事となった幸田末之氏に男子強化部長を、横地宇吉氏に女子強化部長の就任を依頼、そのあと、4月17日に「第1回強化委員会」と銘打って、藤原侑氏(学連)ら5加盟団体と日本リーグから各1名の代表者を集め、次のような活動方針をねりあげている。

一、ナショナルプレイヤーの選定を年度毎に限定せず、随時入退できるようにする。

一、男子強化コーチ、女子強化コーチを各1名置き、これまでの「監督」役とする。（大会などでは監督の名称を用いる）

一、男女とも強化コーチのもとにコーチ群を置き、トレーニングドクター群も併立させる。

一、強化委員会内事務組織として国際担当、企画担当、チーム担当事務担当の4セクションを置く。

これらにそって、さらにこまかい人選の詰めが、5月15日に予定される「第2回強化委員会」までに行われるが、注目の強化コーチのうち、女子は、井薫氏がモントリオール直後から辞意をもらしており、新しい人材の登用が確定的だ。

また、全日本学連から、世界学生選手権への代表チームの強化を東欧諸国のように「学生ナショナル」として、日本協会強化事業に組みこむ提案が行われている。

日本協会と一線を画し、我々は我々という傾向の強かった加盟団体が、自からの事業を、日本協会傘下におさめてもよいという動きをみせたことは注目に価する。

これが、強化委員会への全面協力、全面理解の嚆矢となるならば完全独立した新しい強化委員会の前途には、大きな成果が期待できるといえよう。

注目の全日本新編成

ところで、男女ナショナルチームの編成はどうなるだろう。

男子は、5カ月後に世界選手権予選（本誌21頁参照）を控えているが、ミュンヘン後の第8回世界選手権（49年3月・東ドイツ）時のように、思い切った新戦力登用で臨むかどうかだ。この時は、ミュンヘン代表12名のうち、3名を残しただけという策をとり議論をよんでいる。

女子は、世界選手権が来年12月予選は早くても来年3月とみられ〝余裕〟がある。モントリオール代表から残ったメンバーに、日本リーグなどから新鋭を加えて、夏ごろ新メンバー発表となりそうだ。

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

副部長に中西敬一氏新任 高体連

全国高体連ハンドボール部定例委員会は2月19日午後、東京渋谷の岸記念体育会館で開かれ、任期（2年）満了にともなう役員改選などを行った。

その結果、部長には徳永陸繁氏（東京）を5選した。

3名の副部長はこれまでどおり地区割りで推せんされ、清水正（東、山梨）、嶋田新太郎（中、富山）両氏は留任となったが、西地区から選任されていた小袋是郎氏が辞意を表明、新たに中西敬一氏（西福岡）を選んだ。

このほか、会計監査役が佐分正典（神奈川、新）、平田幸男（広島現）の両氏となり、山崎金夫氏（宮城）は退任された。

行事関係では、52年度から単独事業となる日韓交流（男子第11回女子第4回）を、男女とも「九州地区高校選抜」を派遣して行うことが内定した。

懸案の第1回全国高校選抜大会は来春3月26～28日の3日間、名古屋市で開く。

○……新役員……○

▽部長　徳永陸繁▽副部長　清水正、嶋田新太郎、中西敬一▽常任委員　石切山稔治（北海道）、勝山宏（東北）、三浦公（関東）、金原至（北信越）、伊藤和大（東海）、井上裕人（近畿）、青木操（中国）、日野博（九州）、村田弘、岡前義春、永井勝雄、大塚文雄（以上部長推せん）。四国選出は未定。▽監査　佐分正典、平田幸男。

なお、日本協会代議員は小袋是郎、同派遣理事は清水正、嶋田新太郎の各氏。

「高校選抜大会」を承認

青少年運動競技協議会

文部省、日本体協、全国高体連

全国中体連などで構成されている青少年運動競技中央連絡協議会は3月10日東京で会合し52年度の全国競技会などについて協議、日本ハンドボール協会から提出されていた「第1回全国高校選抜大会（53年3月26～28日・名古屋市）」の計画を承認した。

高校生を対象としたいわゆる選抜大会はこれで16競技になる。

日本協会と高体連ハンドボール部では近く大会要項を発表する。

会長、藤松博氏が代行 学連

全日本学連は3月12日午後、東京渋谷の岸記念体育会館で理事会（並びに総合役員会）を開き、任期（1年）満了による役員改選の結果、理事長に中沢重夫氏（関東、芝浦工大出）を重任、委員長に松下信宏君（関東、中大4年）を新任した。

西敏郎氏の死去で空席となった会長は、小委員会が引きつづき人選を進めることとなり、当分、藤松博氏（東海、名工大出）が会長代行をつづける、とした。

日本協会派遣理事には中沢重夫、田中秀夫の両氏を決めた。

このほか、52年度から加盟金が1校五千円（現行三千円）に増額された。

○……新役員……○

▽会長代行　藤松博▽顧問　山崎剛▽理事長　中沢重夫▽総務担当理事　福地賢介（関東）▽審判担当理事　藤田信義（中四国）▽技術担当理事　藤原侑（関東）▽普及担当理事　田中秀夫（関東）▽理事　浅井正大（北海道）、斉藤節郎（東北）、若山博（北信越）、勝瀬幸貞（東海）、前田吉弘（関西）、市川孝夫（九州）、滝口三郎、久田暁、大西武三、岡田修、中尾嘉範（以上会長せん）

委員長に松下君（中大）

▽委員長　松下信宏（関東・中大）▽副委員長　橋本薫（関西・大阪大）▽会計　渡辺富士子（関東・日本女子体育大）

役員名簿を発表

全日本教職員連

全日本教職員連盟は、このほど「昭和52、53年度役員名簿」を発表した。

これまで理事長をつとめていた片瀬喜代次氏（静岡）が副会長に昇格、新理事長には藤田八郎氏（熊本・済々黌教員）が選任された。

事務局は埼玉県立戸田高校（戸田市新曽一〇九三）内に置かれる

日本協会派遣理事は遠藤健次、高橋健夫の両氏。

○……新役員……○

▽会長　山田計▽副会長　的場益雄、片瀬喜代次▽理事長　藤田八郎▽副理事長　高橋健夫▽事務局長　遠藤健次▽庶務・会計　金子永治▽審判部長　柳井文治▽競技部長　日野博▽研究部長　大西武三▽技術部長　北川勇喜▽普及部長　島田房二▽理事　石切山稔治（北海道）、加藤欣哉（東北）、伊藤和夫（東海）、大西富男（中国）、甲斐忠義（九州）、渋谷行康、加藤雅之、山下勝司、泉幸男、本間誠章（以上会長推せん）※関東、北信越、近畿、四国各ブロックからの推せんは未定▽監事　山田哲也、高田日呂美

日韓男子社会人は延期

全日本実連は5月中旬国内各地で5試合を予定していた第7回日韓男子社会人交流を、韓国側の事情で延期すると発表した。

第2回日本リーグ
6月11日、東京、大阪で開幕（前期戦）

日本リーグは4月16日、東京で常任委員会を開き、第2回日本リーグ(前・後期)の全日程を決め、27日発表した。
　第2回リーグは、男女各8チームによって2回戦制で行われ全112試合。初めて前・後期に分けるのが大きな特色である。

　発表された日程によると、前期は6月11日から7月17日までの5週10日間、後期は10月9日から11月27日までの7週12日間。
　優勝をはじめ全順位とも前・後期の通算成績で決められる。
　参加チームは、男子が前年度チャンピオン・大同特殊鋼(愛知)、湧永薬品(広島)、本田技研鈴鹿（三重)、大崎電気(埼玉)、三景(東京)、大阪イーグルス（大阪)、日新製鋼呉(広島)、それに入れ替え戦から勝ちあがった三菱レイヨン大竹（広島）の8チーム。
　女子は、2連勝を目指す立石電機(熊本)、日本ビクター(茨城)、東京重機(東京)、プラザー工業（愛知)、日立栃木（栃木)、ジャスコ(三重)、大崎電気(埼玉)、入れ替え戦の勝者・大和銀行（大阪）の8チームである。
　前期第1週（6月11、12日）は東京(東京体育館)、大阪（大阪市中央体育館）で幕をあけるが、男子で大同×三景(12日・東京)、本田×イーグルス（12日・大阪）女子でプラザー×ジャスコ（11日・大阪)、立石×日立（12日・大阪）などの好カードが早くも組まれている。
　前年に優勝のかかった男子・大同×湧永、女子の立石×ビクターはいずれも最終日（7月17日）に対戦する。
　後期は、青森国体あけの10月9日、函館、秋田、仙台のカ所で男女全16チームが総登場する華やかな開幕となり、そのあと2週をおいて、10月22日から6週連戦となっている。
　前期の開催は18都市、後期の開催は20都市（予定)。
　来年の国体を控える長野県が前期は更殖市(7月17日)、後期は戸倉町（11月13日）に各3カードを迎えるのは話題。

○……前期日程……○

▽第1週・6月11日(東京)大同×三菱レ、大崎×三景、(大阪)本田技×日新、□日立×大和、□プラザー×ジャスコ。
▽同・6月12日(東京)大同×三景□重機×大崎、(大阪)本田×イーグルス、□プラザー×大和、□立石×日立。
▽第2週・6月25日(広島)日新×三菱レ、湧永×イーグルス、□重機×日立、(熊本)本田×三景、大同×大崎、□立石×大和。
▽同・6月26日(山口)大同×日新大崎×イーグルス、□ビクター×重機、(熊本)本田×三菱レ、□立石×ジャスコ、(福岡)湧永×三景□日立×大崎。
▽第3週・7月2日(山梨)湧永×大崎、□ジャスコ×大和、(静岡)イーグルス×三菱レ、□ビクター×大崎、□立石×プラザー
▽同・7月3日(水海道)湧永×三菱レ、□ビクター×プラザー、（浦和）大同×イーグルス、大崎×日新、□ジャスコ×大崎。
▽第4週・7月9日(大垣)大崎×三菱レ、□重機×大和、□ビクター×ジャスコ。
▽同・7月10日(四日市)湧永×本田、□ビクター×大和、□重機×ジャスコ、(宇都宮)三景×日新、□立石×大崎、□プラザー×日立
▽第5週・7月16日(京都)湧永×日新、□プラザー×大崎、□立石×重機、(豊橋)三景×イーグルス大同×本田、□ビクター×日立
▽同・7月17日＝最終日(蒲郡)大同×湧永、□大崎×大和、□重機×プラザー、(金沢)イーグルス×日新、□立石×ビクター、(更殖)三景×三菱レ、本田×大崎、□ジャスコ×日立。

　□印は女子。正式会場名と時間は次号に掲載

【後期日程】▽第1週・10月9日函館、秋田、仙台。
▽第2週・10月22日高岡、宮崎
▽同・10月23日金沢、都城
▽第3週・10月30日宇都宮
▽第4週・11月6日静岡
▽第5週・11月13日戸倉町、四日市
▽第6週・11月19日呉、大阪
▽同・11月20日神戸、徳山
▽第7週・11月23日水海道
▽同・11月25日東京
▽同・11月26日東京、京都、愛知
▽同・11月27日愛知、岐阜、大阪

徳永陸繁委員長を再選

　初代スタッフが任期（1年）満了を迎えた日本リーグは、3月27日東京代々木の日本青少年総合センターで運営委員会を開き、役員改選を行った。
　運営委員長には満場一致で徳永陸繁氏（日協推）を再選、副委員長は山田稔(日協推)、安藤純光（日協推）両氏の再選、大野金一氏（日協推）の新任となった。
　山田氏は財務及び下部大会、安藤氏は審判・記録及び表彰、大野氏は総務企画及び広報を担当する。
　なお、日本リーグ運営委員は今期以降加盟チーム各1名、日本協会からの派遣5名の合わせて21名で構成されることになった。

○……新役員……○

▽委員長　徳永陸繁▽副委員長　山田稔、安藤純光、大野金一▽常任委員　桑名照雄(日立栃木)、村谷卓保(東京重機)、井上素行（大崎電気女子)、原　栄（日本ビクター)、柴田義彦（プラザー工業)、殿水幸雄（大和銀行)、島田清史(日協推)。
（専門委員会担当）▽総務企画部　○桑名、村谷、荒井正人（大崎電気男子）▽広報部　○西村孝雄（湧永薬品)、砂原睦雄(立石電機)、永井博（三景）▽二部大会委　○柴田、勝田明（本田技研鹿鹿）▽財務部　○殿水、島田▽表彰委、○井上、西村亮治(大同特殊鋼)、島崎政治(大阪イーグルス)、平田正一（ジャスコ）▽記録・審判部　○原、川岡成徳(日新製鋼呉)、木下弘重(三菱レイヨン大竹)。○印は責任者

◆**おことわり**　本誌150号で公募した日本リーグシンボルマークは審査に慎重を期しているため、本誌〆切日に間にあいません。次号発表となりますのでご了承下さい。

「ハンドボール研究」に発表の場

全日本教職員連が新企画

全日本教職員連盟は、毎年、全日本教職員選手権時に開催していた「研究発表会」を今年度から「ハンドボール研修会」と改称、その参加者(発表者)を全国的に呼びかけて募ることになり、このほどその要項を次のように発表した。

全日本教職員選手権で技を競いプレーを楽しむ一方、教職員でもある選手たちが、日頃のハンドボールに対する学習、研究の成果を発表しようという企画は、他競技界ではあまり試みられていず、これまでも多くの注目をあびていたが、今回を機に、いっそうの充実が期待され、多くの発表者が参加することが望まれている。

全日本教職員連盟研究部の話

ハンドボールの発展を考える時、教職員の力に負うところは非常に大きく、今後とも変りないと思う。それだけに、〝教職員ハンドボール界〟の立ち場は重要であり、「ハンドボールをさらによりよいものとしていくこと」が、我々の課題であろう。

「よりよいものとすること」は社会的に価値あるものにすることであり、そこに初めて、普及を論じる基盤ができあがる。

これまでの発表会の反省にもとずいて、多くのかたがたに積極的に参加していただきたいという願いと、「研究」のイメージにとらわれることなく、気楽にハンドボール全般にわたって発表し、討論する場としたい。

○……「ハンドボール研修会」要項……○

▽発表期日　8月9日15時30分から。▽場所　長野県更埴市老人福祉センター。▽発表時間　10分〜20分。▽資料　発表内容を助けるために100部用意のこと、▽発表資格　問わず。▽発表のテーマ　①「学校体育としてのハンドボール」イ、学校体育としてのハンドボールのありかた。ロ、小・中・高校大学のハンドボールの指導法。ハ技術、体力に関するもの。ニ、男・女の相違。ホ、効果の測定。ヘ心理面に関するもの。②「競技スポーツとしてのハンドボール」③「ルール、審判に関するもの」④「ハンドボールの普及対策的なもの」。▽申しこみ先、埼玉県戸田市新曽一、○九三、県立戸田高校内・金子永治気付、全日本教職員連盟事務局。▽申しこみ方法、ハガキに題目、住所、氏名、所属を書いて5月末日までに申しこむこと。題目未定の場合も受けつける。

なお、今夏の第20回全日本教職員選手権（男女）は8月10日から13日まで長野県更埴市で行われる。

実業団女子選抜が韓国へ

全日本実連は、4月29日から5月6日まで韓国各地で行われる第6回日韓女子社会人交流に出場する実業団選抜チーム（近藤金博団長ら役員2、選手16）を次のように発表した。

日本の女子社会人（実業団）が韓国遠征するのは3年ぶり、4〜5試合の予定である。

過去5回の通算成績は日本側の22戦15勝1分6敗。

一行は4月28日出発、5月7日午後5時5分大阪着。

○……訪韓全日本女子実業団選抜……○

▽団長　近藤金博（全日本実連理事）▽監督　白神邦雄（ブラザー工業監督）▽選手・GK　丸山加代子（立石電機、166cm)、山本福代（ブラザー工業、164cm）・FP　小島和子(日本ビクター、165cm)、斉藤ゆき子(同、155cm)、横山祐美子(東京重機、160cm)、折口律子（同、150cm)、鈴木洋子(ジャスコ、161cm)、林節子（同、159cm)、山井マチ子(日立栃木、158cm)、晴山節子(同、168cm)、大場裕子(大崎電気・全日本165cm)、席定洋子(大崎電気161cm）池渕澄江(立石電機、160cm)中川しげみ(ブラザー工業、158cm)清水みよ子(東北ムネカタ、170cm)、宮本啓子（大和銀行、165cm）

JHAレフェリーコースに88名

日本協会審判委が新しい企画として開いた「第1回(昭和52年度)J・H・Aレフェリーコース」（前期）は3月26、27、28日の3日間東京・日体大を王会場にして行われた。

当初は30人程度の受講者があればとみられていたが、合格すればB級ライセンスさらに努力しだいでは国際審判員へのコースにもつながるとあってか88名（うち女子1名）が申しこみ主催者は急きょ会場を変更するほどの大盛況。

受講者の中にはかつての全日本選手や大学生の姿も目立った。後期は今夏8月の予定。

日本金メダル、決勝で韓国を降す

～初のアジア選手権～

注目の中国3位、クウェート4位

日本は、初のアジア選手権を勝ち抜き、国際的なビッグエベントで、史上はじめて金メダルに輝やいた──第1回アジア男子ハンドボール選手権は、3月26日から4月4日までクウェートで開かれ、日本、韓国、中国、サウジアラビア、アラブ首長国連邦(エミレート)、イラク、バーレーン、パレスチナ、クウェートの9カ国が参加した。

大会は、首都クウェートのアルサディクスクール・スタジアム（屋外コート）を主会場に、ほとんどの試合がナイトゲームで行われ、2組の予選リーグのあと、各組上位2国による決勝トーナメントとなった。

日本（竹野奉昭監督ら役員2、選手13）は、A組に組みこまれ、地元クウェートなどを順調に降し、決勝トーナメントでは、まず、国際舞台に初登場の中国に完勝、つづく決勝では予想どおり韓国と顔を合わせ、気力充実の攻守で前半に勝負を決めた。

アジアハンドボール界の成長を示すまさに画期的な大会で、国際ハンドボール界からも多くの注目が集ったが、日本はモントリオール・オリンピック9位の実力をいかんなく発揮、スピード豊かな攻撃と洗れんされた守備をみせ、みごとな優勝であった。

第2回大会は一九七九年（昭54）に予定され、開催地としてイラクが名乗りをあげている。

なお、日本選手団は4月10日午後、陽やけした元気な表情で空路無事帰国した。

予選リーグA組

前半で勝負決める

第1戦・サウジアラビアとの試合は3月27日（大会第2日）午後4時30分からアルサディク・スクールスタジアム（以下同じ）で行われた。審判＝イフサン・ヤワド ホスセイン・アルワン・モハメド（ともにイラク）

日本 27（15－5、12－8）13 サウジアラビア

【日本】	得		【サウジアラビア】	得
本田	0	GK	エイザ・カローカ	0
斉藤将	0	GK	ラシエド・アル・ドサリイ	0
柳川	4	FP	アームド・カルバン	4
藤中	5	FP	ファド・シベイ	2
中井	1	FP	アブダラ・カラフ	2
佐藤	4	FP	アブダラ・アル・ウェブ	1
松原	3	FP	ハッセン・アル・ミニアン	1
花輪	3	FP	アブダラ・アル・オライヤン	1
佐々木	0	FP	メリジ・ラゼム	1
斉藤幸	5	FP	アブダル・M. ナヤス	1
中本	1	FP	アームド・ハッセム	0
蒲生	1	FP	アリ・サレイ	0
PT	(1) 27			13

〇……荒っぽいディフェンスと審判判定の規準の違いに悩まされながら、まずは予定通りの楽勝。

柳川をトップに出して、1－5ディフェンスをひき、無作為なサウジのロングシュートを未然に防ぐと共に、速攻に目標を置いた。

9分までに柳川、藤中、蒲生が走り5－1とし、その後も着々と加点、前半を15－5として勝負を決めた。

後半メンバーチェンジの多用もあって、攻防共コンビネーションの凡ミスが目立ったが、全日本初遠征の斉藤(幸)が良いプレーを見せ、5得点を記録した。

（東 嘉伸・全日本コーチ）

速攻みごとに決まる

第2戦・アラブ首長国連邦との試合は30日（大会第5日）午後5時45分から行われた。審判＝ラヤブ・マイヨーフ(クウェート)、モハムド・ユスフ・ウデイン（インド）

日本 25（10－6、15－5）11 アラブ首長国連邦

【日本】	得		【アラブ首連】	得
柴田	0	GK	モハムド・エド	0
斉藤将	0	GK	エベ・ゴマ	0
藤中	3	FP	マタ・アマン	3
中井	3	FP	ラシエド	2
佐藤	5	FP	トリム・アリ	3
蒲生	5	FP	カリファ・アームド	3
花輪	2	FP	モハムド・ラシド	0
松原	2	FP	エベ・エベド	0
佐々木	1	FP	アブドラ・イスマイル	0
斉藤幸	2	FP	サイド・ムバラク	0
柳川	1	FP	ナサール・オスマン	0
中本	1	FP	M・ラシド・アル・タニ	0
PT	(0) 25			11

〇……データーを観る限り参加中最も組み易い相手と思えたが、前半どうしてもリズムに乗り切れずミスシュートが目立ち、もたつくゲームとなった。

しかし10－6で迎えた後半は、佐藤、中井、花輪が走り、後半6分には16－6とつき離した。守ってもGK斉藤(将)が2本のペナルティを含む巧キーピングで日本の一方的なゲームとした。

なお、ゲーム中、興奮した観衆の投石があった。（東 嘉伸）

度肝ぬいた空間三角パス

第3戦・クウエートとの試合は4月1日（大会第7日）午後4時30分から行われた。審判＝ワリド・ファギル(アラブ首長国邦)、アブダス・アル・アリ(バーレーン)

日本 30（14－7、16－10）17 クウェート

【日本】	得		【クウェート】	得
本田	0	GK	アリ・アブバス	0
柴田	0	GK	アル・ドウイサン	0
中井	2	FP	アムド・アブダス・リダ	5
藤中	5	FP	アル・ランデイ	1
佐藤	7	FP	アル・マンヤリ	1
花輪	3	FP	ハッサン・グルーム	4
佐々木	2	FP	ヤマル・アル・コダリ	3
蒲生	2	FP	ヤセム・ジアブ	1
柳川	3	FP	モハムド・アメール	1
中本	0	FP	ヤセム・アル・カサ	1
松原	1	FP	アブデル・ナビ	0
斉藤幸	5	FP	アル・ヘロ・フルフード	0
PT	(2) 30			17

〇……失点こそ多かったが試合内容において完勝した。地元クエートの大観衆をして日本がみせた巧プレイに溜息こそあれ、声援がとぎれがちであった。

速攻がよく出たし、藤中、佐藤がそれぞれ特徴を充分出した。前半終了前に見せたダブルスカイプレー（空間三角パス）に場内からは敵、味方を越えての大喝采を受けたし、新聞記者達がベンチの後

をとび廻る程で、これが即ちとどめであった。

GK柴田も、3木のペナルティをはじめ、随所に堅守を見せ、40分までにとしてクェートを全く寄せつけなかった。（東　嘉伸）

パレスチナにも一方的

第4戦・パレスチナとの試合は2日午後5時30分から行われた。審判＝イサン・ヤワド、ハッセン・アルワン（ともにイラク）

日　本 39（24 15－6 6）12 パレスチナ

○……連日、クェート、サウジアラビヤ、アラブ首長国連邦とはげしい試合をして来たパレスチナは

【日本】	得
GK 斉藤将	0
GK 柴田	0
FP 佐藤	5
FP 松原	8
FP 藤中	1
FP 中井	3
FP 柳川	2
FP 佐々木	2
FP 花輪	3
FP 蒲生	9
FP 中本	2
FP 斉藤幸	4
PT	（2）39

【パレスチナ】	得
GK パワブ	0
GK アル・メサルマ	0
FP R・パドラン	
FP タラアニ	
FP E・パドラン	
FP ナビリシ	5
FP ガルビア	
FP アル・ダヤニ	
FP ユネス	
FP ガルラ	
FP ショラパティニ	
FP アル・グワニ	
	12

三名の主力選手がケガのため珍らしく闘志がみられず、日本の一方的な試合となった。

松原、蒲生、佐藤が打ちまくり大量点と今大会最高点を記録した。それでも後半中頃より、コンビによる得点を目標にコントロールする余有を持たせたゲームであった。（東嘉伸）

（注）個人テーブルのうち、パレスチナの得点はナビリシ選手以外は不明。

また、この試合、日本ベンチのスコアでは40得点となっていたが、公式記録席は39得点にマークされ、この結果となった。

優勝した日本代表チーム

▽監　督　竹野　奉昭（40）
▽コーチ　東　　嘉伸（40）

	氏名	年齢・所属	出場数・得点（通算）
▽GK	①本田　洋	（30．大阪イーグルス）	⑭0（1）
	⑫柴田　正章	（23．本田技研鈴鹿）	⑲0（0）
	⑯斉藤将一郎	（23．秋田教員）	⑬0（0）
▽FP	②柳川　実	（23．大同特殊鋼）	⑱14点（64）
	③藤中　憲二	（29．大同特殊鋼）	㊲21（166）
	④中井　武三	（28．大同特殊鋼）	㊱15（112）
	⑤佐藤　要二	（27．本田技研鈴鹿）	㊴30（163）
	⑥松原　光三	（27．大同特殊鋼）	㉑18（38）
	⑦花輪　博	（26．大同特殊鋼）	㊱17（54）
	⑧佐々木健一	（27．三　景）	㉔12（30）
	⑨斉藤　幸司	（23．大崎電気）	⑥16（16）
	⑩中木　光明	（22．大同特殊鋼）	⑥4（4）
	⑪蒲生　晴明	（22．大同特殊鋼）	㊳24（86）

・氏名左の○内数字は今回の背番号
・右欄の○内数字は公式国際試合出場数
・点数は今回の得点，（　）内は通算得点（本誌調べ）

◇A組このほかの結果

クウェート 20（14 6－7 4）11 サウジアラビア
パレスチナ 30（16 14－7 7）14 アラブ首長国連邦
クウェート 30（14 16－6 5）11 アラブ首長国連邦
パレスチナ 11（雨天中止 再試合）11 サウジアラビア
クウェート 16（9 7－11 3）14 パレスチナ
パレスチナ 25（10 15－9 5）14 サウジアラビア
サウジアラビア 25（17 8－12 5）17 アラブ首長国連邦

【A組順位】①日本4戦全勝②クウェート3勝1敗③パレスチナ2勝2敗④サウジアラビア1勝3敗⑤アラブ首長国連邦4敗

予選リーグB組（結果）（出場4カ国）

韓　国 28（11 17－7 11）18 イラク
中　国 28（16 12－9 10）19 バーレーン
韓　国 33（16 17－7 8）15 バーレーン
韓　国 20（10 10－10 9）19 中　国

○……この大会でもっとも注目を集めたカード。

ともに試合前から、エキサイトしていたが、韓国は1分、金成憲が、長身の中国ディフェンスを、鮮やかなフットワークで突き抜けしかも中央から得意のアクロバット・ショットを決めた。

この1点は、中国を少からず動揺させ、韓国には、余裕が生じた。これほど、先取点が、その後の展開を左右した例はないだろう。

中国も、独特のパスワークと速攻で、随所に好プレーをみせたが試合かけ引きで、韓国に一歩をゆずった。日本を除いては各国とも戦術が単調。反則で5人になってもフルメンバーと同じように攻めたり守ったりする。相手のプレーに応変できる力が乏しいといえる（竹野奉昭・全日本監督）

イラク 16（9 7－7 6）13 バーレーン
中　国 22（10 12－4 9）13 イラク

【B組順位】①韓国3戦全勝②中国2勝1敗③イラク1勝2敗④バーレーン3敗

藤中、木野の記録抜く

□……全日本・藤中憲二選手（大同特殊鋼）は、アジア選手権6試合にいずれも得点をマーク、46年11月のイスラエル戦からの公式国際試合連続得点記録を42試合に伸ばした。

この記録は、木野実選手（湧永薬品）のもつ41試合連続（41年10月～48年9月）を破るもの。

大熊は不参加　アジア選手権出場メンバーに選ばれていた大熊昌巳選手（FP、大崎電気）は勤務上のつごうで代表を辞退。遠征に加わらなかった。

中国から初の勝利

決勝トーナメント

予選リーグの結果、決勝トーナメントの組み合せは、次のように決まった。

- 日本（A組1位）
- 中国（B組2位）
- クウェート（A2）
- 韓国（B組1位）

後半は中国の得点優る

準決勝の第1戦、日本×中国の試合は3日午後4時30分から行われた。審判＝アブダラ・アル・カサール、サネフ・アル・マジデ（ともにクウェート）（＝写真）

日本 26（11—13、15—6）19 中国

【日本】		得
GK	本田	0
	柴田	0
FP	藤中	5
	蒲生	3
	中井	4
	佐藤	6
	花輪	4
	松原	0
	佐々木	3
	斉藤幸	0
	柳川	1
	中本	0
PT		（4）26

○……11年ぶりの対戦、しかもアウト・ブランドということで、いささか緊張をかくし切れなかったが、かえってその緊張感がディフェンス面で巧を奏し、又攻めては2分蒲生が特意のシュートを左角に決め3分、中国長身のリーに打ち返されたが、4分、5分に佐々木、藤中がフェイントからのカットインシュートを決めて3—1としてリラックスした。さらに速攻で花輪が2本成功させて8分には5—1と優位に立った。

○……蒲生、中井、藤中が位置をづらしてからの中距離シュートで又佐藤、佐々木、花輪が速攻とスカイプレーで攪乱し、21分には11—5、29分に佐藤がペナルティーを堅実に決めて前半15—6と予期以上の大差をもって折り返した。

後半の立ちあがりもよく9分柳川のポストプレーが決まったところで20—9としたが、ここで一息つきすぎ、15分までにH・チエン T・ヨウ（左腕）に連続5得点を許し20—14とつめ寄られた。日本もここで御藤、藤中、中井が頑張り21分には再度24—14と引き離し、安全差に入った。

GK本田、柴田もよく頑張り中本もディフェンス要員で重責を全うし、総力で新生中国を一蹴した日本（ナショナルチーム）が、中国ナショナルを破ったのは初。40、41年に4連敗していた。（東 嘉伸）

◇中国オール・メンバー（音訳）▽GK イエ・ジ・ヤン、ヤー・リュウ、▽FPリー・タイ・ピン、ハウイ・チン、ギン・パイ・リヤン、ワン・ショウチエン、サン・ヤン・ベン、ツア・チワン・ヨ、ツマン・ハイ・アン、リヤオ・コー・チャン、ワン・ヨン、ツヤン・ホン・ギュン、チャオ・シン・ラン。

韓国が進出

準決勝の第2戦・韓国×クウェートの試合は3日午後5時から行われ、韓国が順当勝ちした。

韓国 21（10—8、11—8）16 クウェート

立ちあがりから主導権

初のアジア・タイトルをかけた決勝戦、日本×韓国の試合は4日午後5時45分から行われた。審判＝ラジャブ・マイヨフ、ハディ・アル・マディ（ともにクウェート）

日本 24（11—8、13—6）14 韓国

【日本】		得
GK	斉藤将	0
	柴田	0
FP	中井	2
	藤中	2
	佐藤	3
	蒲生	4
	松原	4
	花輪	2
	佐々木	4
	柳川	3
	斉藤幸	0
	中本	0
PT		（4）24

【韓国】		得
GK	李錦求	0
	金永年	0
FP	車聖福	0
	李鍾七	5
	高正圭	0
	金成憲	2
	崔昌南	2
	鄭亨均	5
	張星淳	0
	杜暁均	0
	崔永寿	0
	白根煜	0
		14

○……金メダルをかけて宿敵韓国が異状なファイトを見せた。日本の攻撃をアンフェアーな反則で阻止、7分までに3人の警告者を出し、又、このゲームだけで3人の退場者を出した。

日本はひるむことなく自己のペースを堅持し、藤中、蒲生が上から打ち込み、松原がサイド攻撃と速攻に牙を見せ10分に5—1、20分に8—5とされたものの前半終了時には13—6と点差を開いた。

○……韓国は金成憲に元気なく、車も、日本の堅いディフェンスの前に攻めあぐみ、わずかに鄭と崔の執ような攻めが目立った。

後半も日本ペースで43分佐々木の速攻が成功したところで19—8と勝負を決めた。以後一進一退20分には21—10、25分に22—13、29分30秒佐藤の速攻で24—14と、ファイナルを飾った。しかしこの試合8本のペナルティを得ながら半分の4本しか決められなかったことはきびしい金メダルへの重圧とはいえ、今後の精神トレーニングへの警鐘といえよう。（東 嘉伸）

3位は中国

決勝戦に先立って行われた3位決定戦・中国×クウェートは乱戦の末、中国が、後半、動きの鈍いクウェートディフェンスをゆさぶって大量点をあげ、快勝した。

中国 38（22—13、16—12）25 クウェート

〃〃〃〃〃〃〃〃 一人一人に金メダル 〃〃〃〃〃〃〃〃

□……決勝戦終了後、ただちに表彰式が行われた。

出発前から「大きな国際試合で中央の台（優勝）にあがり、金メダルをかけてもらうのが夢。今回はその絶好のチャンス」と張り切っていた選手たちは、優勝を告げるホイッスルと同時に、コート上でとびあがり、喜びをあらわした。

スポットライトをあびた表彰台で、まず竹野監督がサリム・サバハ・アル・サリム・アル・サバハ社会労働大臣から大きなトロフィーを受け（＝表紙写真）、そのあと全選手が、スタンドの日本人の大歓声をうけて一人々々、宿願の金メダルを授与された。

★クウェート・コートサイド★

安藤氏、技術委員会に

□……生まれたばかりのＡＨＦ（アジア・ハンドボール連盟）とあって大会運行も、開幕直前になりあわただしく色付けされる状態で最重要セクションの「技術(競技)委員会」が編成されたのは、なんと開会式の２日前。

クウェートのラジャブ・マイヨフ氏がリーダーとなって、日本の安藤純光氏(法大出)をはじめイーサン・ヤワド（イラク）サウド・ベン・アブデル・アジス（サウジアラビア）、アブダス・アル・アリ(バーレン)、ハディ・アルマジデ・サエブアル・マジデ、アブダルラ・アルカサル（以上クウェート）の８氏がメンバー。

日本人で国際的なビッグトーナメントの技術委員をつとめたのは安藤氏が初めて。

なお、日本の安藤―岡前義春ペアはオープニングゲームのクウェート×サウジアラビア戦、クウェート×パレスチナ戦でレフェリングした。

★ اليابان :
١ ــ هيروشي هوندا
٢ ــ ميزو يانج وا
٣ ــ كينتجي توجينا كا
٤ ــ تاكيزو ناكايا
٥ ــ يوجي ساتو
٦ ــ كوزو ماتسوبارا
٧ ــ هيروشي هاناوا
٨ ــ كينيشي ساساكي
٩ ــ كوجي سايتو
١٠ ــ ميتسوكي ناكاماتو
١١ ــ سمي جامو
١٢ ــ ماساكي شيبانا
١٣ ــ ماسامي أوكوما
١٦ ــ شوشيرو ساباتو

ＩＨＦ代表なども来場

□……アジアで初のチャンピオンシップとあって、国際ハンドボール界の注目も大きく、ヒョークベルグ会長(スウェーデン)、リンケンバーガー事務総長(西ドイツ)、渡辺和美理事（日本）などＩＨＦ（国際ハンドボール連盟）首脳陣が相次ぎクウェートへ姿をみせた

リンケンバーガー事務総長は「優勝は日本と韓国の間で争われるだろう。

中国も強いという評判だが興味深い。

パレスチナは、母国の領土ができれば、ＩＨＦに加盟できる。

現在、ＩＨＦは68の加盟国をもち、28カ国が加盟の準備中だ」などと地元記者に話していた。

このほか、アラブハンドボール連盟の関係者がさかんに出入りし注目された中東諸国にはアジア、アラブ両連盟に加入しているところも多い。

読めますか、このメンバー

□……出場国の慣用語がすべて異るとあって大会当局の心労はたいへんだったが、やはりハバを利かしたのはアラビア語。

まるで図案のような文字はそうは簡単に読めるものではない。

上掲の凸版はプログラムに掲載された日本のメンバー。

★印の左に日本とあり、そのあと本田、柳川、藤中、中井、佐藤松原、花輪、佐々木、斉藤(幸)、中本、蒲生、柴田、大熊(不参加)斉藤(将)の順。

しかも、このまま読まれたり発音されたりすることは、ほとんどなく、試合後のプレス発表では姓と名が混同されてキンジ（藤中）ヨギ(佐藤)、マストパラ(松原)、などと〝変化〟してくる。蒲生などは名前の晴明（せいめい）がシアマイと変わるのだから、日本チームの中でもしばらく、誰を指すのか判らなかった。

もっとも、アブダラ・アティク・アル・ザハリ(サウジアラビア)日本の皆さん、どれが姓で名だか判りますか。

雨と砂嵐で試合中止

□……大会第４日に行われたパレスチナ×サウジアラビア戦は、Ａ組の３位をかけた試合とあって期待どおりの好試合になったが、前半終了まぎわから、天候が急にくずれだし、激しい雨と突風が巻くいわゆる〝砂嵐〟に見舞われた。

このため、後半の開始が不可能となり、技術委は中止を宣告、改めて２日後、再試合と決めた。

アウトドア・コートならではの話だが、それにしても、夜空から雨がおち、地から砂が吹きあげる情景は、異様であった。

砂嵐は大会後、日本選手が海水浴に出かけた時もおき驚ろかせた

日本人小、中学生が大声援

□……日本優勝の大きな力になったのは在クウェートの日本人学校の生徒さんによる応援。

全校（小～中学校）あわせて80人ほどだが、連日グループをつくってスタンドから大声援。

大会終了後の一日、選手団全員が、市内にある同校にお礼の訪問に出かけ、ハンドボールの〝特別授業〟も行なった。

「クウェートにいる日本人でハンドボールを知らない人は一人もいません。100％の普及率ですよ」とは竹野監督のみやげばなし。

得点王は中国のギン

□……大会当局の発表した個人得点ベストテンは次のとおり。

①ギン・バイ・リヤン(中国)31②佐藤要二(日本)30③鄭亨均(韓国)28④Ｈ・Ｊ・グルーム（クウェート）25⑤蒲生晴明(日本)23⑥金成憲(韓国)23⑦ワン・シャング（中国）、Ａ・Ａ・リダ(クウェート)22⑨藤中憲二(日本)、車聖福（韓国）21

なお、予選段階終了時の最多得点選手はＦ・シベイ（サウジアラビア）と鄭(韓)の19ゴールだった

クウェートジュニアに敗る □……大会終了後の４月７日、日本は世界ジュニアに参加するクウェート・ジュニアと練習マッチを行ない26―27で負けてしまった

「勉強のために」というクウェート協会の依頼による対戦だったが、審判員のジャッヂが「いささか常識外」(日本某選手)。非公式試合とはいえ後味がわるかった。

中浜大同監督が見学 選手権とはいえ、どちらかといえば国内の関係者は〝ヨーロッパ指向〟。

そのなかで昨年の日本リーグチャンピオン・大同特殊鋼(愛知)監督の中浜大軸氏がクウェート入りし、つぶさに大会を見学する一方、日本チームのマネージメントを手伝った。

「日本、各国の目標点に」「力づけられた在留邦人の声援」

竹野奉昭監督に聞く

――史上初めての「金メダル」おめでとう。勝因は？

竹野奉昭監督　モントリオール9位の名にかけても拙い試合はできないという自覚と、アジアでいちばんキャリアのある国としてのプライドが選手たちにあった。ようやく「ナショナルチーム」の型がプレーの上でも〃心の面〃でもできてきたといえる。

また、日本大使館やクウェートに住んでいられる日本人のかたが着いた日から本当によく世話をして下さった。

日本人学校の80人あまりの小中学生の熱心な声援もあり、この人たちの好意に、勝って報いようという気持ちも強かった。

精神的な充実が、優勝の最大因だと思う。

――不安は少しもなかったか。

竹野監督　韓国以外はまったく手の内が判らず、久しくやったことのないアウトドアでの国際ゲーム、大会運営にしても心細い気はしていたが、大会2日前、組み合せが決まり韓国、中国と別の組になったことや、2日目から出場という日程で落ちつけた。

ホテルも近代的で海岸に近く、環境もよかった。

――各国の実力はどの程度だったか。

竹野監督　大きく分けると日本韓国は、いわば〃極東流〃、アラブ諸国はヨーロッパスタイル、中国はその両者をミックスといった感じだ。

中国が196cmクラスを2人揃え、平均183cmの長身チームで目立った以外は、各国とも小柄で、パワーに欠ける。

これは、アジアハンドボール界全般の特色であり、弱点となろう

実力的には、予想どおり韓国が日本につぐ経験の豊富さでまとまっており、過去数回みた韓国チームのなかで、今回が最高といってもよいチーム力だった。

中国は、40～41年に交流した時とあまり変っていない。やはり〃空白〃が響いている。ヨーロッパそれも東欧のスタイルに、バスケットボール、バレーボールの戦法を加え、ユニークではある。

アラブ諸国では、ナンバーワンというシリアが姿を見せていなかったが、イラクが将来伸びると思う。バーレーンも好チームだ。

まだ全体に粗雑で、特にディフェンスは、抜かれると後からだきついてくる。攻撃もスピードとリズムにかける。

――いつまでも日本の圧勝がつづくか。

竹野監督　そうは思わない。中国は、この大会をきっかけに奮起するだろうし、アラブの積極的な姿勢も侮れない。クウェートやイラクではハンドボールがサッカーにつぐ第2位的位置にあるという。これは大きい。

クウェート・ジュニアはヨーロッパ各国をまわり、世界ジュニア（4月・スウェーデン）に出るのだと張り切っていた。

――参加が10カ国を越すと思われたが

竹野監督　シリアやインドからは審判員だけが送られてきていた。

朝鮮民主々義人民共和国をはじめ、これらの国々の不出場の理由はまったく判らない。

屋外でのナイトゲーム，日本にはかつてない経験だった（対サウジアラビア戦・シューター藤中）

――大会の雰囲気や運営は？

竹野監督　予想以上に大がかりで驚いた。クウェートで、このようなビッグエベントが行われるのは初めて。〃国営の大会〃ということから入場はいっさい無料、そのためか、観客も、平均二千人以上集まり、クウェートの出る試合は、五千人収容のスタンドがいっぱいだった。

決勝トーナメントはテレビ中継も行われるなど、クウエートの努力は大変なものがあった。

ただ、技術的な面での運行は不馴れなせいか、手落ちが多く、公式記録も出ない。

日本もパレスチナ戦は、たしかに40点入れたのだが、39点で押し通されてしまった。

――レフェリーは？

竹野監督　自己流というか、アラブ流というか……。とまどう面が多かった。

日本のパスプレーを読み切れずもたつく審判員も居たし、シュートを射ったあと手が当たっても、プッシングをとるなどしていた。

卒直にいってレベルは低い。ただ、レフェリーの判定は〃絶対〃という信念が徹底しており、ちょっとでも不満げな表情をみせようものなら、すぐ警告か退場だ。

困ったのは、日本がプレー中に声を出して次のプレーを指示したり、守りを固めたりするのを、審

判に対する不満の発声と想われてしばしば警告されたことだ。
ともかく、アラビア語、中国語韓国語、日本語がとびかうのだから〝誤解〟が生じるのも仕方がないが……。

――問題のコートやボールは

竹野監督　コートはこまかい砂を固めた上にアンツーカーをまいたもので、プレーをしにくいことはなかった。照明も明かるく、支障なくできた。
ボールは西ドイツ製で、各国とも松ヤニを使っていた。

――日本に対する評価は？

竹野監督　キャリア、実力ともに抜群という前評判が行きわたっており、空港に着いた時、地元のスポーツライターから「優勝しに来たわけだが…」と切り出されたほどだった。
ヨーロッパと交流している国が多く、ヨーロッパの長身に対して日本がどのような戦術で対抗するのかも注目されていたようだ。
日本の試合は、ほとんどの国のコーチ陣がメモや写真をとっており、日本がアジアにおける一つの目標点になっていることを再認識した。
スカイプレーは、初めてみたレフェリーが多く、ほとんどラインクロスにとられたため、点差が開いた時に用いただけだった。クウェート戦で佐藤―佐々木―藤中と空間パスをみごとに通してゴールを決めた時は、スタンドがしばしどよめきつづけ、日本付きの地元役員が、はしゃぎだすほどだった
各国のコーチは「当分、日本には追いつけない」といっていたようだが、中国、韓国は、今回でますます〝打倒日本〟の闘志を強めたのではないか。
勝負ももちろん大事だが、アジア初の国際選手権という意義を充分考えようと選手が心がけ、マナーのよさも評判になった。

――外国選手で目立ったのは。

竹野監督　韓国では相変らず金成憲がいい。彼のアクロバットシュートは、大会の人気の一つになった。鄭亨均の進境もいちぢるしい。
中国は左腕のギン・バイ・リャン。186cmでアンダーハンドシュートの切れ味が鋭い。彼が31点をあげ得点王になった。
このほかでは、サウジアラビアのファド・シベイ、クウェートのハッサン・グルームが目についた程度。

――表彰式の模様を聞きたいが

竹野監督　オリンピックや世界選手権と同じようにコーチなど役員は表彰を受けないものと思っていたら、カップは監督が受けとるのだという。あわててグランドへ降りて、思わぬ栄光に浴した。
そのあと、東コーチ以下一人々々が表彰台にあがって金メダルをもらい、夜空に「君が代」が響き感激的だった。

――国王にも会われたそうだが

竹野監督　各国の代表者と30分ほどの謁見があり、握手をしました。そのあと、皇太子にもお目にかかりましたが、大使館の話ではめったにないことだそうです。

――「友好」という点は

竹野監督　毎日なにか一つレセプションがあるといった感じで、中国、サウジアラビア、日本は在クウェート大使館が、それぞれ各国代表を招いてパーティを開いた
ヨーロッパなどでは、選手同士のガヤガヤしたムードだが、今回は、いわゆるアジア式の格調が随所にみられ、我々は、少しヨーロッパ的になりすぎたという感じをもった。
次回以降は、必ず団長をつけて欲しい。

――次回については

竹野監督　2年後、おそらくイラクになると思う。

――女子の実施は

竹野監督　ほとんど話がでなかったが、来月ダマスカスでアラブ女子トーナメントが開かれるそうで、あるいは近い将来、女子のアジア選手権も、ということになるかもしれない。

――選手たちは、地元にいる日本の人々の歓待に感激したといっているが。

竹野監督　本当にお世話になった。羊の肉と野菜を煮こんだクウェート料理に食指が動かず、どうなることかと思ったが、毎日のように日本食の差しいれがあり、どれだけ助かったか判らない。
試合にも連日応援に来ていただき、大使館のかたたちの至れりつくせりの配りょに、心から感謝しています。
クウェートで「君が代」を聞き唱えるなんて思ってもみなかったと喜ばれ、優勝できてよかった、と思う。
選手たちも〝勝つ歓び〟が、自分たちだけのものでないことを改めて感じたようだ。今後ますます精進し、いつか、世界の金メダルを手にしたい。
すべての面で、初のアジア選手権は成功した、といってよい。

――お疲れのところ、ありがとうございました。（4月11日、体協で）

昭和41年9月以来の顔合せ，中国との試合後交歓する日本選手（白）

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

山梨社会人リーグ
韮崎クラブ
代表 横森 貞
事務所 韮崎高校内

山梨社会人リーグ
大月スワロー
代表 西室 覚

株式会社 大森組
代表取締役 大森 七五三造
専務取締役 大森 篤範
北海道上磯郡木古内町本町83

共同舗装工業株式会社
株式会社 斉藤組
共同生コンクリート株式会社
専務取締役 斎藤八郎
北海道上磯郡上磯町字七重浜192

グリーンコミニュケーション
エレクトロニクスで未来を招く
日本電気株式会社山梨工場
山梨県山梨市小原西843
TEL 05532—2—3111(代)

大垣市ハンドボール協会長
伊部 良男
岐阜県大垣市林町六丁目八〇番地
オーミケンシ株式会社大垣工場

◇岐阜県実業団ハンドボール連盟◇

会長	清水晴次	大垣市中曽根町	日本耐酸壜工業取締役
副会長	柳瀬準一	岐阜市茜部中島	二和家具工業取締役
理事長	森島清明	大垣市中曽根町	日本耐酸壜工業
理事	隅田泰生	不破郡垂井町宮代	帝人製機岐阜工場
	新村 茂	岐阜市茜部中島	二和家具工業本店
	泉 文俊	安八郡安八町大森	三洋電機岐阜工場
	安武英巳	大垣市久徳町 239	太平洋工業
	浅野敏夫	大垣市中曽根町	日本耐酸壜工業
	高橋省吾	大垣市神田町	揖斐川電工本社

◇愛知県実業団ハンドボール連盟加盟会社及び団体◇

アイシン精機株式会社
新日本製鉄株式会社 名古屋製鉄所
自衛隊春日井
大同製鋼株式会社
中部電力株式会社
トヨタ自動車工業株式会社
トヨタ車体株式会社
トヨタカローラ愛知株式会社
豊田自動織機株式会社
豊田工機株式会社
豊田合成株式会社
株式会社トーメン名古屋支社
日本碍子株式会社
パイロットインキ株式会社
伏原紡織株式会社
ブラザー工業株式会社
三菱自動車工業株式会社
名古屋自動車製作所

（アイウエオ順）

AHFが理事会開く

アジア選手権視察のあと、バーゼル(スイス)のIHF(国際ハンドボール連盟)本部などをまわって、このほど帰国した渡辺和美IHFアジア選手理事によると、AHF(アジアハンドボール連盟)は、4月2日クウェートで理事会を開いた。

出席したのは、ファハド・アル・アハマド・アル・ザバハ会長(クウェート)、アブール首席副会長(バーレーン)、ジアド・アブドル・ハッサン事務局長(パキスタン)それに渡辺氏とアジリ会計役の5名で、ワン次席副会長(中国)と二人の理事(朝鮮民主々義人民共和国とイラク)は欠席した。

会議は、渡辺氏によるIHFサイドの報告が主体で、ほとんど決議らしいものはなく、IHFとつながるアジアの各コミッション(審判、競技、技術、医事、普及)を急ぎ編成することが申し合わされたにとどまった。

〈注〉渡辺和美氏は、昨春1月AHF結成時点では役員(理事)に加っていなかったが、その後「IHF地域担当理事は、自動的にAHF理事とする」内規によって、今回初めて理事会に出席したもの。

「あくまで地域単独の大会」
IHFのアジア選手権見解

IHFは、第1回アジア選手権について、「あくまで、地域単独の大会～選手権であり、特に今回は、IHF未加盟国のパレスチナ、中国などが参加しており〝親善〟大会」という判断を示していることが、渡辺IHF理事の帰国談で明きらかになった。

また、IHF・リンケンバーガー事務総長は、アジア全般の審判技術のレベルの低さを、渡辺氏に指摘したという。

アラブ諸国は6月第1週、バクダットで「レフェリー講習会」、夏にはリビアまたはエジプトで「コーチ研修会」を開く予定。

今秋、世界選手権のアジア予選

IHF(国際ハンドボール連盟)は、来春1月デンマークで行う第9回世界男子選手権Aグループのアジア、アフリカ、アメリカ各大陸予選について、このほど発表を行ない、4月末までにエントリー今秋10月末までに予選を終了するよう告示した。

本誌〆切り(4月20日)までに日本が届出を完了したほか、台湾が申しこんでいる(=未確認)。

日本協会筋では、このあと韓国クウェート、場合によってはインドがエントリーするものとみている。

この予選の組織責任者である渡辺和美IHF理事は「アジア予選をどのような方法で行うかはエントリーが出揃ったうえで考える」とし、開催期日、場所などをいっさい発表していない。

IHFは、アジアに限らず大陸別連盟が主管する地域選手権を〝公認〟していないため、世界選手権やオリンピックの前に、別の〝アジア大会〟(予選)が必要となってくる。

第1回アジア選手権から半年経つか経たないうちに、もういちど同じような顔ぶれの大会を開くのは、なんとももったいない話だが「今のところ、どうしようもない」(日本協会・荒川理事長)。

もうひとつの問題は再び三たび開催地と組み合せである。

消息筋によれば、IHFにも、なんとか摩さつをさけたいとする空気が生まれはじめている、ということだが、はたしてどのように発表されるか。

なお、イスラエルは今年度からヨーロッパ地域の所属になっている。

アジア代表はポーランドらと
世界選手権組合せ

IHF(国際ハンドボール連盟)は、3月17日コペンハーゲンで来年1月26日から2月5日までデンマークで開かれる第9回世界男子選手権Aグループの予選リーグ組み分けを次のように発表した。

組み分けの抽せんはフレデリック(8才)とヨアヒム(7才)の2人のデンマーク王子によって行われた。

◇A組　西ドイツ(モントリオール4位、前回9位)、ユーゴ(M5位、前回3位)、チェコ(M7位、前回6位)、アメリカ地域代表国

◇B組　ソ連(モントリオール優勝、前回5位)、デンマーク(M8位、前回8位)、スペイン(前回順位なし)、アイスランド(前回順位なし)

◇C組　ルーマニア(モントリオール2位、前回優勝=2連勝4度目)、ハンガリー(M6位、前回7位)、東ドイツ(前回2位)、アフリカ地域代表国

◇D組　ポーランド(モントリオール3位、前回4位)、スウェーデン(前回10位)、ブルガリア(前回11位)、( )内のMはモントリオールオリンピックを示す。

世界選手権Bグループ(続報)

第9回世界男子選手権Bグループは本誌前号既報のとおり2月25日から3月5日までオーストリアに12カ国が参集して開かれ、Aグループ進出の6カ国を決めたが、大会最終日(3月5日)ウイーンで順位決定試合を行なった。三千の観衆を集めた決勝戦はスウェーデンが予想をくつがえし東ドイツを破った。

なお、得点王は33ゴールをマークしたグルナー(東ドイツ)だった。

▽7・8位決定戦

フランス　21（13－11　8－8）19　オランダ

▽5・6位決定戦

スペイン　23（11－10　12－9）19　ブルガリア

▽3・4位決定戦

チェコ　21（2－1　2－1　…　9－9　8－8）19　アイスランド

▽1・2位決定戦

スウェーデン　20（10－11　10－8）19　東ドイツ

〈得点者〉【ス】ラスミューゼン5、ハカンソン4、ビヨルン・アンデルセン、ボー・アンデルセン各3、I・アンデルセン2、リベンダール、ハンセン、ジョンソン各1【ド】ドライボート6、シュミット4、グルナー3、ベーメ2、ヒルデブラント、エンゲン、ロスト、ホエフト各1

湧永薬品、欧州遠征で好成績（10戦5勝2分3敗）

単独チームとして史上初のヨーロッパ遠征を行った昨年度チャンピオンチーム・湧永薬品（広島、湧永儀助団長ら役員3、選手13）は、3月8日から24日までオーストリア、西ドイツ、ユーゴ、ブルガリアの4カ国で10試合をまじえ各国のトップクラスから5勝2分3敗の好成績をあげた。

一行は3月26日夜無事帰国したが、そのスコアブックから転戦の模様を探ってみた。

オーストリア

遠征第1戦、ユニオン・クレムス（オーストリア全国リーグ2位）との試合は、3月8日午後7時30分からクレムス市のスポーツホールで行われた。審判＝レイナル、カプスタ、観衆＝八百。

湧永薬品 29（14－16、15－8）24 ユニオン・クレムス

○……クレムス攻撃陣の主力グルベックとブロックは2日前までオーストリアで開かれていた世界選手権Bグループに出場。

湧永は緒戦とあって緊張の立ちあがりだったが前半20分8－8のあとPTで先行してから調子づき一気に7点をもぎとって優位に立ち、後半も互角に得点、みごとに初勝利を飾った。

得	【クレムス】		【湧永】	得
0	シヤルダ	GK	福井	0
0	コナード	GK	今井	0
1	ゴル	FP	津川	3
8	グルベック	FP	木野	5
0	シュラッアー	FP	穂積	5
0	ガスナー	FP	山本	7
6	レク	FP	戸田弟	5
6	モザー	FP	松木	1
2	ブロック	FP	高橋	3
0	ハブッシュ	FP	藤本	0
0	パルンストルファー	FP	戸田兄	0
1	ティフェンボック	FP	緒方	0
24	（4）	PT	（2）	29

西ドイツ

第2戦、TV・ブルール（西ドイツ・ミッターハイン地区上級リーグ2位）との試合は3月11日午後8時5分からブルールで行われた。

湧永薬品 28（14－8、14－9）17 TV・ブルール

【湧永】		得
GK	福井	0
GK	須波	0
FP	松本	4
FP	高橋	5
FP	木野	1
FP	山本	4
FP	穂積	2
FP	津川	3
FP	戸田弟	9
FP	藤木	0
FP	緒方	0
FP	戸田兄	0
PT	（2）	28

○……地区リーグで優勝を争っているブルールは、相手が日本のチャンピオンチームとあって大変なはりきりよう。前半20分までほとんど優劣はなかったが、残り5分から湧永は松本、戸田弟、山本で引きはなし、後半も走り勝った。

松本、殊勲の連続ゴール

第3戦・OSC・ラインハウゼン（西ドイツ全国リーグ北地区2位）との試合は13日午後6時40分からラインハウゼンスポーツホールで行われた。観衆＝八百。

湧永薬品 26（15－13、11－12）25 OSC・ラインハウゼン

得	【ラインハウゼン】		【得永】	得
0	パルッケ	GK	福井	0
0	ネレン	GK	今井	0
4	ペルステル	FP	木野	0
4	クレブリンク	FP	高橋	3
2	ハルフマン	FP	津川	0
6	シュミット	FP	穂積	0
4	ハウゼン	FP	松本	10
0	コロディエ	FP	山本	5
4	キセピア	FP	戸田弟	6
		FP	緒方	2
		FP	藤本	0
		FP	戸田兄	0
24	（2）	PT	（2）	26

○……この遠征でもっとも評価される1勝であった。

モントリオール代表のクレイブリンクをはじめ4人のナショナルをかかえるラインハウゼンは今や全国リーグの〝目〟。

グンメルスバッハをおさえて北地区の2位。西ドイツ選手権獲得も夢でない。

しかも、GKは2m15の新進バルツケがつとめ（＝25頁参照）、女子チームは48年9月に来日しているなど、湧永勢にとっても話題豊富。

○……試合は湧永が1分高橋で先制したが、ラインハウゼンはクレイブリンクを中心としたパワープレーで18分9－3。

しかし、湧永もなかばすぎからスピードプレーが冴え、前半終了時には1点差に追い詰めた。

後半、湧永は7分15－15としたあと木野のリードから好テンポとなり10分18－16、25分24－22と先行したが、ラインハウゼンの反発力もさすがに強く、26分から2分半の間に3点を奪い返されて24－25、湧永が逆に苦しくなった。

だが、湧永は28、29分松本が速攻で同点―逆転のはなれ技を演じ貴重な1勝をあげた。

新進アタッカー・ローゼンダール(20才)とケラーの二人がソ連戦に出かけていなければ、とラインハウゼンのファンはぼう然としながらも、強気なところをみせた。

後半、パワーの差でる

遠征第4戦・TUS・ネッテルスタット（西ドイツ全国リーグ北地区4位）との試合は、14日午後7時からリューベックで行われた。審判＝シュメル、シュミット。

TUS・ネッテルスタット 26（17－7、9－11）18 湧永薬品

得	【ネッテルスタット】		【湧永】	得
0	モーレ	GK	福井	0
0	アルスラナジッチ	GK	今井	0
2	ビリッシュ	FP	津川	3
4	ゴセヴインケル	FP	山本	5
3	デミロビッチ	FP	木野	3
2	シピシット	FP	穂積	1
0	ヒュアー	FP	松本	1
2	グロムベック	FP	高橋	3
1	ルブキング	FP	戸田弟	2
4	ピッケル	FP	藤本	0
7	ガスト	FP	緒方	0
1	ケーリング	FP	戸田兄	0
27	（0）	PT	（1）	18

○……強引な補強策によって、この5年間で最下級リーグからあっという間に全国リーグ入りをはたし、しかも初登場の今季、4位に

湧永薬品遠征メンバー

▽団長　湧永　儀助
▽チームリーダー　村中　明郎
▽監　督　市原　則之
▽GK①今井　敏之　大阪経大　178・
　⑫福井　秀人　中京大　180・
▽FP②津川　昭　大阪経大　180⑮
　③木野　実　立教大　180⑳
　④穂積　豊彦　大阪経大　180⑮
　⑤緒方　嗣雄　日体大　170④
　⑥高橋　益夫　日体大　165⑯
　⑦戸田栄一(兄)　立教大　170・
　⑧藤本　重生　中大　174⑤
　⑨松本　義樹　中大　173⑱
　⑩山本　伸二　名城大　176㉘
　⑪戸田　政弘　中大　173④
▽GK～特別参加～
　⑯須波　雅人　筑波大3年　184・

・氏名左の○内数字は背番号
・出身校右の数字は身長（cm）
・右欄○内数字は今遠征の得点

頭張っているネッテルスタット。

かつての帝王ルブキング（139公式国際試合、650得点）がいる。ユーゴの豹・アルスラナジッチがいる。重戦車ゴゼヴインケル、ガストのGGコンビがいる……。

○……ラインハウゼン戦の勝利に気をよくする湧永はこの日も後半3分までリードをつづけた。

しかし、ネッテルスタットは4分12—12のあとリズムに乗り連続5点で主導権をつかんだ。湧永も15分すぎ15—18と粘ったが、かさにかかったネッテルスタットはそのあとダイナミックな攻撃で7ゴールを連取、勝負を決めた。

35才になったルブキングは、往年のシュート力はなくなったが、配球の巧さと動きの鋭さがさすがだった。

余裕のぞかせ逆転勝ち

遠征第5戦・セントトーニス体育協会チーム（西ドイツ・ニーデルハイン地区上級リーグ1位）との試合は15日午後8時からデュースブルグ市郊外体育館で行われた

湧永薬品 32（17—15 / 12—12）24 セントトーニス体協

得	【湧永】	
0	今井	GK
0	福井	GK
6	山本	FP
5	津川	FP
4	木野	FP
6	穂積	FP
4	高橋	FP
2	松本	FP
4	戸田弟	FP
1	藤本	FP
0	緒方	FP
0	戸田兄	FP
PT（5）32		

○……やや疲れのみえた湧永だがトップクラスとの善戦ですっかり自信をつけ、地区上級リーグ優勝で意気あがるセントトーニスに前半15分まで6—9とリードを許しながら、穂積、木野、津川の連取であっさり形勢を逆転、余裕たっぷりに押し切った。

ユーゴスラビア

第6戦・メタロプラスチカ・シャバッツ（ユーゴ全国リーグ6位）との試合は17日午後7時からシャバッツ市のゾルカスポーツホールで行われた。審判＝バルジッチ、スタノジェビッチ、観衆＝千五百

湧永薬品 30（13—17 / 12—18）30 メタロプラスチカ・シャバッツ

得	【湧永】			【シャバッツ】	得
0	福井	GK	GK	デュカノビッチ	0
0	今井	GK	GK	ゾヂッチ	0
7	穂積	FP	FP	ブコビッチ	6
2	松本	FP	FP	ファイフリッチ	0
2	戸田弟	FP	FP	パブロビッチ	5
7	山本	FP	FP	ラデイホジェビッチ	6
3	津川	FP	FP	ミヤトビッチ	2
5	木野	FP	FP	ラジッチ	2
4	高橋	FP	FP	ノバコビッチ	1
0	藤本	FP	FP	イサコビッチ	1
0	緒方	FP	FP	レキック	6
0	戸田兄	FP	FP	クベヂッチ	1
PT（2）30				（0）	30

○……ユーゴの全国リーグ（1部）は14クラブ。そのうちの6位とあれば相当な実力。

試合は大変な乱戦となり、湧永は23分14—11のリードをささえ切れず、そのあとの逆襲を受けて1点のハンデを負い後半を迎えた。

波にのったシャバッツはパブロビッチの巧技などで点差を着々と拡げ16分25—21。

しかし、湧永は攻撃力にすっかり自信がつき、相手ディフェンスの動きが鈍くなったとみるやこの遠征で得意戦法となった集中攻撃を仕掛け、25分ついに27—27のタイ、26分山本で28—27とした。

シャビッツは二本のPTに恵まれ、さらにパパロビッチで29分30—29と勝利をおさめたかにみえたが、湧永はタイムアップ寸前、木野が射ちこんで引き分けとした。

ベテラン緒方、貴重なゴール

第7戦・I M・ラコビッツア・ベオグラード（ユーゴセルビア共和国リーグ1位）との試合はヴァジドパッツスポーツセンター内のバニツア体育館で行われた。審判＝ペトロビッチ、ミトロビッチ　観衆＝一千

湧永薬品 30（18—12 / 12—13）25 ラコビッツア

得	【湧永】			【ラコビッツア】	得
0	福井	GK	GK	ヂェルゴビッチ	0
0	今井	GK	GK	カルヤク	0
4	須川	FP	FP	ペトロビッチ	1
5	穂積	FP	FP	キルヤコビッチ	5
5	山本	FP	FP	オブチーチ	9
4	松本	FP	FP	ステパノビッチ	0
1	藤本	FP	FP	ラドジェビッチ	0
7	木野	FP	FP	ポポビッチ	0
3	緒方	FP	FP	ムルセビッチ	4
0	戸田弟	FP	FP	カラクラジッチ	1
0	戸田兄	FP	FP	パブロビッチ	5
1	髙橋	FP	FP	ペシク	0
PT（1）30					25

□……各国とも、日本のチャンピオンチームが来征してくるとあって、全国リーグ（1部）の上位チームが迎えてくれた。

ヨーロッパのトップレベルの力を肌で感じて来たい、とする湧永薬品の目標は、まず達成されたわけで、そのうえ、10戦5勝2分という成績をあげたのだから、この遠征は、大成功である。

□……本場ヨーロッパでは、各国協会のスケジュールが早いところは3年先まで決定されており、今回のようなケースは地域協会あるいは単独の有力クラブに引きあわされてマッチメークが成立する。

それだけに、チャンピオンという看板が大いにモノを云ったようだし、遠い日本から初の乗りこみという意欲も高く買われ、行ってみると最初の予定より試合数が増えているほどのモテかただった。

□……各地のレセプションには、チーム関係者はもとより、市や町のおえらがたが必ず出席。

湧永が荒木広島市長のメッセージをたずさえていったこともあって、親善の面でも大いに実をあげた。ちょっとした民間外交だ。

□……さて、各クラブともシーズ

評価高い攻撃力

大成功の初遠征

ン終盤、チーム力充実の時期だけに、その成績が注目されたが5勝2分（3敗）は上出来である。

特にOSC・ラインハウゼン（西ドイツ）からの1勝、メタロプラスチカ・シャバッツ(ユーゴ)、セシカ・ソフィア（ブルガリア）との引き分けは、日本のトップチームが、ヨーロッパでも充分戦かえることを示したもので、評価してよい。

スピードにあふれた多彩な攻撃展開力は、各国の専門家から注目をあびたようで、市原監督も「攻めでは自信ができた」といっている。

□……今回の遠征の特色は、東欧諸国にも足を延ばしたことだろう

このあたり、湧永側のリサーチの確かさと、難しい交渉を乗りこえた熱意が賞される。

また、遠征メンバーのプロフィールや会社のパンフレット送付など、事前PRも万全で受けいれ側の好感をよび、地元ジャーナリズムの関心を高めた。

すべて巧い具合に運んだ〝初遠征〟だが、これは一にも二にも湧永薬品の前向きな姿勢によるものである。

（S）

○……セルビア共和国リーグは、全国リーグのすぐ下、いわゆる2部である。

前半のシーソーゲームからラコビッツアは後半8分までに5点をあげ18－15とリード。

湧永はじっくりとチャンスを待ち15分21－21のあとベテラン緒方が連続2ゴール、さらに穂積、津川とたたみかけ主導権をがっちり握った。

ラザレビッチ健在

第8戦・ツルベナ・ズエズダ・ベルグラード（ユーゴ全国リーグ8位）との試合は20日午後3時21分からバニツア体育館で行われた審判＝ブキセビッチ、ラジッチ

ツルベナ・ズエズダ 33（15－13、18－9）22 湧永薬品

	【湧永】	得	【ズエズダ】	得
GK	福井	0	スタニッチ	0
GK	須波	0	ミラトビッチ	0
FP	高橋	5	ミハロビッチ	12
FP	松本	5	ミコビッチ	2
FP	山本	6	ピアトビッチ	0
FP	木野	2	ムラデノビッチ	1
FP	津川	2	ネナディッチ	2
FP	穂積	1	ラザレビッチ	5
FP	緒方	1	マカリッチ	4
FP	藤本	0	ストラジウク	4
FP	戸田弟	0	ラコビッチ	1
FP	戸田兄	0	ロット	2
	PT（4）	22		33

○……思わぬ人が出て来た。ラザレビッチ。ミュンヘン五輪ユーゴ優勝の立役者、48年に来日したエースアタッカーである。先シーズンまで西ドイツのTUS・ネッテルスタットで活動していたが、兵役のため帰国したもので、4年前の長髪を切り、いっそう精かん。「練習不足」といいながら要所でポイントを決めた。

湧永は転戦の疲れがのぞき動きが鈍い。10分5－7とせりあったが、そのあとはミハロビッチの切れのいいシュートを受けて点差を開かれ、前半29分ダブルスコアになってしまった。

後半、湧永はどうにか攻撃がまとまったが11分16－22まで。

ブルガリア

第9戦、セシカ・ソフィア（ブルガリア全国リーグ1位）との試合は22日午後5時6分からソフィア市で行われた。審判＝コストフ、カバデロフ。

湧永薬品 24（13－10、11－14）24 セシカ・ソフィア 引き分け

	【湧永】	得	【セシカ】	得
GK	福井	0	バラゾフ	0
GK	今井	0	イワノフ	0
FP	津川	3	ガンチェフ	3
FP	木野	6	ハドシエフ	6
FP	穂積	2	ドイチェノフ	2
FP	高橋	4	ペトコフ	4
FP	藤本	2	ラトスチェフ	2
FP	山本	3	ナトチェフ	3
FP	松本	4	ワルコフ	4
FP	戸田弟	0	ビイコロフ	0
FP	緒方	0	ワルバノフ	0
FP	戸田兄	0	チカゴフ	0
	PT（0）	24	（7）	24

○……ソフィア入りする直前に、来年2月の世界選手権Aグループの組み分けが発表され（＝本誌21頁参照）、ブルガリアとアジア代表は同組、それだけに、湧永に対する関心はいっそう高まった。

似たりよったりの展開からセシカ（中央軍隊）は、ナショナルのエースでもあるドイチェノフが、PTを確実に決めたほか力感あふれたシュートで湧永ゴールを割りしだいに優位に立ち、後半6分17－11と大差がついた。

湧永は10分すぎから積極的に射って出16分17－19と反撃の態勢固めが成り、23分津川でようやく同点（22－22）に追いつけた。

このあとセシカの2回の攻撃を守りぬき26分山本で23－22、逃げこめるかと思えたが、セシカは28分ドイチェノフでタイ、29分PTで逆に優勢をとった。

粘る湧永はタイムアップ寸前、好調・高橋がみごとに切りこんで引き分けた。

前半のリード保てず

第10戦（最終戦）、スポルチエスト・ソフィア（ブルガリア全国リーグ同率1位）との試合は、24日午後6時25分からソフィア市で行われた。

スポルチエスト 21（9－4、12－15）19 湧永薬品

○……互角の立ちあがりから湧永は10分すぎ津川のゴールを口火に速攻とポストプレーで16分11－7とリードした。

	【湧永】	得
GK	福井	0
GK	今井	0
FP	山本	7
FP	木野	0
FP	津川	3
FP	穂積	0
FP	高橋	2
FP	松本	3
FP	藤本	2
FP	戸田弟	2
FP	緒方	0
FP	戸田兄	0
	PT（4）	19

だが後半になると、当りの激しい相手ディフェンスに追加点のチャンスをつぶされ、その間に反撃を許して10分16－16に追いつかれた。

湧永は16分のPTを高橋が決め17－16、再びいいムードになったかと思えたが、そのあと11分間無得点。逆にスポルチエストはミドルシュートを主武器に4ゴールして優位に立った。湧永は残り5分必死の攻撃を試みたが逃げ切られ最終戦を飾ることができなかった。

〃〃〃〃〃〃〃〃 ヒロシマの名高める 〃〃〃〃〃〃〃〃

□……市民スポーツが根づいている欧米では、アマ、プロを問わずホームタウンとの結びつきが強く新聞などでも「ラインハウゼン、グンメルスバッハを破る」とすべて都市名で表現される。

そこへ「湧永薬品」が乗りこんでも、すぐには理解されない。

「ワクナガ・ヒロシマ」ということになり、ニュースはすべて「ヒロシマ強し」「ヒロシマ、次はベオグラードと」といった具合になる。湧永の力で、ヒロシマの名はぐんと高まったことだろう。

どっかと身長2m15のGK
湧永セブンが“すごさ”を証言

○……本誌149号の「海外トピックス」で報じられた西ドイツの巨人GK、ディーター・バルツケの写真を、全日本学生選抜軍のコーチとして訪欧した一宮昌平氏（日体大OB）が手に入れてきてくれたのにつづき＝左掲＝、湧永薬品（広島）が、話題の主と一戦をまじえてきた。

○……ともかく2mのゴールポストの前へ身長2m15のバルツケ選手が立つのだから、さすがの西ドイツファンもこの話で持ち切り。

所属のOSC・ラインハウゼンが、全国リーグ（北地区）の2位に躍進し、ますます脚光をあびている。

写真（「キッカー誌」）をみただけでも、充分その大きさは判り、いわゆる巨人型のもつ〝虚弱さ〟は感じられない。

○……湧永セブンも、両手を拡げられるとまったくスキがなく、立たれているだけで驚異、そのうえかなり敏しょうで柔軟性もあり、ロングシュートはほとんどはじき返すと〝証言〟している。

ただ、21才の若さ、経験の浅さからまだまだシュートコースの読みが甘く湧永は股下、頭の上などを変則的なシュートで攻め崩したそうだ。

○……木野実選手は「ゴール前に仁王立ちするバルツケをみるだけでハンドボールが楽しくなります

しかし、FPにつづくGKの2m時代到来は〝恐しいこと〟です」といっているが、気の早い西ドイツファンは、これでモスクワオリンピックで金メダル獲得が有望になったと騒いでいるという。

○……もちろん、彼の素質をみこんだ西ドイツ協会も、昨年暮れナショナルチームにリストアップしているが、今後、彼がどう〝成長〟するか、たしかに興味深い。

なお、FPの最長身は本誌の知る範囲ではアンピロゴフ（ソ連）の204㎝。

【写真・右が話題のバルツケ。カメラの位置（距離）から考えてもその大きさが判ろうというもの　一宮昌平氏提供】

◇世界学生選手権リポート（下）

勝つための努力と体制を

コーチ　一宮　昌平

二十六日間の全日程を終え、無事羽田に到着した私達は、世界学生選手権敗戦のくやしさと、全日程を無事に終了したという安心感の入り混った中で解散して行った。

ポーランドで行なわれた第七回世界学生選手権は、選手諸君の精一杯の努力のかいもなく参加10チーム中8位という結果に終った。しかし、予選リーグで、ルーマニアを苦しめ、チュニジアと接戦し最終日の順位決定戦ではブルガリアと最後まで、一点を争う接戦を演じ、選手は、自分達が持つ力を十二分に出しきったものと信じております。しかしながら出発前の壮行会で、早大OBの菊池悟君（モントリオールオリンピック代表前回代表）が「国内では試合の結果しか評価しない」と言ったとおりの反響のようです。

さて、私はこの遠征を通して、日本が今後国際大会にいかに対応する必要があるか、二、三書き述べようと思います。

外国チームと日本チームの最も大きな相違点は、日本がこの大会にかぎって選抜されたチームであるのに対して、他のチームのほとんどが、ナショナルチームの中からの選抜であるということです。つまり他チームは、常に一つのチームとして、定期的に合宿を行ない、ゲームを行なっている中からの選抜であり、そのチームの指導者はナショナルチームのコーチングスタッフの中から選ばれ、地元ポーランドを始め、ほとんどのチームの監督がナショナルチームの監督と同一人であったことです。

この点、日本は大いに反省すべきものがあるように思われる。これは国内の現在の組織に大きな問題があるように思われ、日本協会の一貫した指導体制の確立が望まれるところである。今後日本が国際舞台で活躍するためには、この一貫した指導システムのもとに、選手強化をはかって行く必要があるのではないかと思う。

次に、前にも述べたように、チーム構成の問題である。私は参加する以上勝たねばならないという信念を持っています。

では一試合でも多く勝つためには今の選手選抜方法でいいのだろうかという疑問がわいてきます。学連内部の詳しい事情はわかりませんが、もし学連が最強のチームを送りたいと思うなら、今の選抜方法は改善すべきだと思う。地域の問題をはじめ、いろいろな問題をかかえているとは思いますが、本当に学連のレベルアップを考えるなら、学連はそのために最大の努力をしなくてはならないと思う。そして、学連が今後もこの大会に参加する意志があるならば、早急に「学生ナショナル」あるいは「学生選抜チーム」を作り、指導スタッフを確立し、少なくとも年三～五回の合宿を行ない、次回参加に対する基礎作りをする必要があり、この選抜チームの中から、遠征メンバーをピックアップしていくようにすれば、多少なりとも強化出来るものと信じます。

このほか、やはり寄せ集めのチームでは、いかに選手が優れていても勝てないということであってやはり勝つためには、それだけの準備と努力をおしんでは駄目であるということを痛感させられたものです。

最後にこの遠征に対し、御協力御支援下さいました皆様にお礼を申し上げ、選手諸君の今後の活躍を祈るものです。

（日体大OB、日体大(男)コーチ）

選手原稿

長野　透

私にとって初めての海外遠征で気持も落ち着かないまま、昨冬十二月二十六日、ルフトハンザ（ドイツ航空）で、日本の地を初めて離れてヨーロッパに向けて出発した。

十五・六時間余りの機内では、初めは、ものめずらしさもあって食べていたが、しだいに食欲きたがなくなり、体にだるさを感じて初めて踏んだ外国の地・西ドイツは、まだ、朝方で薄暗く、吐く息が白くいかにも寒そう。体力、時差の調整で三日間をすごしテストマッチ（練習試合）の為にフランクフルト市へと向った。

フランクフルトでは、本大会までの調整期間として、西ドイツのクラブチームと、試合をやり、外人達に対しての慣れと試合を重ねて、試合の流れを覚える事と、外人達に対しての対策が課題とされた。

しかし、どこの試合場に行っても、とにかく驚く事ばかりなので

ある。
　まず外人選手の身重・体格が、日本人に比べると大きい事。初めて、経験する私にとっては、見るだけで圧倒されてしまい、自分自身のプレーがここで通用するのか不安であり疑問でも有った。観衆が多い事も一つだ。ふと、日本でもあんなに観衆の前でプレーができればと思った。
　さすが本場西ドイツだな、と、つくづく思い知らされるような雰囲気は今思い出してもうらやましい。
　試合は、一部リーグのチームから六部リーグのチームまでの9チームと行なったが、どのチームも、自分達の持っている力を充分に発揮してくれたし、また、ホイッスルも、意外に日本びいきだった。一試合、一試合を振り返ると心に残る試合だった。
　西ドイツからポーランドへ。ワルシャワ空港に着き、まず感じた事は、共産国である為に、日本との差がはっきりとわかる。日本では、石油・原子力の時代というのに、ポーランドでは、石炭である道路では、馬車が走り、私としては、想像できなかった。食事にしても、ポーランド側としては、最高の料理を出しているが日本人の口に合わず、あまり食べられなかった。だが、日本でいうなら京都奈良とでもいおうか、古い建物が多く、しっとりとした町なみは環境として最高でした。
　本大会に入り、日本は、Bグループで、強豪にはさまれた。ルーマニアはモントリオールオリンピックの銀メダリストであるし、ポーランドは銅メダル。いかに学生ナショナルとはいえ、主力はオリンピック代表選手ですし、初めから勝負はわかっているが、どれだけ我々がくっついていけるか、どれだけ通用するか、闘志ももちろんありました。特に、ルーマニアとは、後半十分まで、二点差で頑張ったが、平均身長1m90という大きさにもかかわらず彼らはスピードがあり、その上パワーもあり善戦の末、惜しくも押し切られてしまった。
　大型選手が、日本の中型選手ぐらいの動きを平気で行うのだから威力がある。
　予選リーグは一勝三敗で四位、順位決定戦では、ブルガリアに敗れ八位という結果になったが、私は、悔いはないと思う。今後この大会で日本が上位に進むには日本人の弱点である、長身選手に対する守りを強化し、よりスピードある攻撃をしなくてはならないと思う。この遠征で学んだ事を生かしさらに頑張っていきたいと思う。
(FP・中大4年(新)、熊本市立高出

坪子　義明

　羽田を出発してから二週間後、我々は、最大の目標とするポーランドでの世界学生ハンドボール選手権大会に臨んだ訳であるが、国際試合の経験が乏しい選手が多く外国での生活も不慣れであったし言葉も不自由はしたものの、コンディション作りも、割合うまくいった。
　全員、西ドイツでのテストマッチではのびのびとやっていたが、本大会での試合は、あがった訳でもないのだろうが、だいぶ堅さがあり、日本国内とちがって走る事も出きない狭い場所でのウォームアップも痛く、試合の結果は一勝四敗に終ってしまったが、対ルーマニア戦でのすばらしい闘志と攻撃力は忘れられない。攻撃力においてはある程度国際レベルに達していると思うのだが……
　国際試合を経験して感じた事だが、やはり最大のポイントは、ディフェンスの強化ではなかろうかこのことは出発前からいわれていたが、実際にこの目で見て改めて痛感した。特に、外国選手は
・一対一になった時のスタンスの広いフェイント。・ポストで相手を引きずってでも打つ強引なシュート。・長身を理用したロングシュート。・サイドでの体を預けながらのシュート――。
　どれをとっても自分の持っている身体を充分に活用しているのである。
　オリンピック前に騒がれた全日本女子バスケットボールが考え出した「忍者ディフェンス」のような、日本人の体格にあった独得なディフェンスをあみ出せないものだろうか。
　最後に審判の研究も忘れてはいけないと思う。
・ペナルティの取り方。・警告そして退場の取り方。・感情をむき出しにすること――。
　特にサイド、ポスト、のペナルティの取り方は多少日本と異なるように思えた。
　本場ヨーロッパでの国際試合を経験して、何らかの形でこの体験が自分にプラスになるようにしたいと思う。(FP・中央大4年卒業、中大付高出)

宿泊料値上げで棄権　近着の西ドイツスポーツ誌によると、第7回世界学生選手権の直前になってスペイン、オランダ、イスラエルら6カ国がとつぜん参加をとりやめたのは、ポーランドの大会当局が各国の宿泊負担金を当初の予定・一人一日8ドルから急に倍額の15ドルに増額したのが理由だ、と伝えている。

ユニバシアード委に　日本協会と全日本学連は、かねてから日本ユニバシアード委へ(JUSB)の加入を申請していたが見通しが立ち、早ければ4月内に委員を送りこむことになる。

(お詫び) 本誌前号19頁世界学生選手権「全日本学生」のうちFP**北野勝也選手**(京都産大3年、166cm)の名が脱けておりました。お詫びします。なお、リポート未着のものもありますが、この特集は今月で打ち切らせていただきます

名古屋のアジア大会白紙に　本誌前号で報じた名古屋市が5年後のアジア競技大会開催地として立候補の用意をしている、というニュースは、その後、この年の同大会はすでにインドでの開催が確定していることが判り、白紙に戻された。

世界女子ジュニア延びる　3月18日から25日まで14カ国が参加してルーマニアで開かれる予定の第1回世界女子ジュニア選手権は3月はじめのルーマニア地震のため、今秋9月に延期された。
　男子の大会は4月11日からスウェーデンで予定どおり開かれている。

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

レーベルゲ"楽しみ"に終る

極東旅行の途次、日本に立ち寄った西ドイツのクラブチーム、BSC（ベルリーナスポーツクラブ）・レーベルゲとの親善試合は、3月19日京都府立体育館で男女各1試合、26日東京調布の東京重機体育館で女子1試合が行われ、日本側が優勢のうちに終った。

西ドイツチームの来日は48年9月のOSC・ラインハウゼン（女子）以来。

気構えちがったシーズンの差

□……どうもはじめから、気構えがちがっていたようだ。

下部リーグ所属とはいえ伝統の西ドイツチームとあって、相当の実力が期待されたのだが、すでにシーズンオフ、しかも観光旅行のあいまとあっては、気勢もあがらない。

日本側は、これからが本格的シーズン、日本リーグの開幕を待ちわびるチームが主体。第1戦男子の京都などは、地元のレベルアップを企って、東京、名古屋、大阪から全日本クラスの"OB"を呼びよせて初のオールスターを編成したほどの意気ごみだった。

□……それでも、12チームによる全国リーグ（ブンデス・リガ）のすぐ下のレジョナル・リーグ「ベルリン・ディビジョン」で2年つづけて2位という女子は、さすがと思わせるプレーをみせた。

第1戦は日本リーグ加盟で意気あがる大和が11分5－2と先行したが、レーベルゲは後半、小柄（154cm）なシュルツの連続得点などで形勢をかえた。

しかし、大和は10分すぎ再び波にのり富家、内海の活躍で16分12－11とリード、一気に引きはなすかとみえたが、19分同点にされ、そのあと決め手を欠いて引き分けた。

第2戦は日本側の完勝。

▽女子第1戦（京都）

BSC・レーベルゲ 12（5－6、7－6）12 大和銀行（大阪）
引き分け

得	【大和】		【レーベルゲ】	得
0	佐藤	GK	ムスリッフ	0
0	丸山	GK		0
2	宮本	FP	ルーツ	4
2	内海	FP	ティール	3
2	増永	FP	フレッフ	0
0	清水	FP	ロスメイル	0
1	岡村	FP	シュルツ	5
5	富家	FP	オベルシュミット	0
0	東納	FP	シェイフェルト	0
0	茶野	FP	アペルト	0
0	楊枝	FP	メーデル	0
0	田守	FP	シューマン	0
12	(0)	PT（審・福井、吉田）	(0)	12

▽大和その他の出場者FP河野、久保、義川（いづれも得0）

▽女子第2戦（調布）

東京重機・大崎電気連合 23（15－3、8－4）7 BSC・レーベルゲ

得	【重・大連合】		【レーベルゲ】	得
0	佐久間（重機）	GK	ムスリッフ	0
0	中島（大崎）	GK		
1	折口（重機）	FP	ルーツ	2
10	大場（大崎）	FP	ロスメイスル	0
2	西（大崎）	FP	シューマン	0
3	横山（重機）	FP	シュルツ	0
1	古谷（重機）	FP	オベルシュミット	0
1	席定（大崎）	FP	フレッフ	1
2	深堀（大崎）	FP	シェイフェルト	0
3	鈴木（重機）	FP	ティール	4
0	細谷（重機）	FP	アペルト	0
0	内野（大崎）	FP	メーデル	0
23	(2)	PT（審・青木、後藤）	(1)	7

▽男子（京都）

京都オール・スター 37（17－5、20－5）10 BSC・レーベルゲ（西ドイツ）

得	【京都スター】		【レーベルゲ】	得
0	山田（ワコール）	GK	ベルツ	0
0	松村（京都産大）	GK		
6	飯田（同大OB）	FP	ピュッケ	1
2	平岡（塔南OB）	FP	ゲンシケ	0
11	西沢（ワコール）	FP	ホロイファ	0
1	生駒（京都産大）	FP	ホーブッシュ	4
3	能波（伏工OB）	FP	アペルト	1
0	中井（同大OB）	FP	ランド	3
1	石橋（ワコール）	FP	ハッケバルト	1
3	三林（伏見ク）	FP	ベッゲ	0
3	垣内（ワコール）	FP	フェニック	0
6	小山（京都教員）	FP		
0	上田（京都ク）	FP		
37	(1)	PT（審・寺村、藤本）	(2)	10

□……一方の男子は、経費の都合で、ベルリン地区上級リーグで活躍するレギュラークラスの若手が揃わず、平均年令は33才とも、36才とも……。

京都戦では10分8－1と引きはなされ、戦意をそう失。京都側も気の毒に思ったか、オリンピック選手の中井（大同特殊鋼）を、ほとんど"温存"したままで終った。

男子第2戦キャンセル

□……これに恐れをなしたわけでもあるまいが次の大崎電気戦前日故障者とカゼひきなどを理由に、試合のキャンセルが申しこまれ、東京協会をあわてさせた。

幸い（？）第2戦は、無料公開とあって、大崎電気のシニアクラスをまじえた交歓試合に切り替えた。

ところが、飯田、家村（旧姓・東）GK福本ら新旧の全日本選手が加ったレーベルゲ側が、日本リーグ上位復活を狙うレギュラーを食ってしまい、これにはディーター・ランド団長も大喜び。「これこそ真の国際親善試合。今回の旅行の最大の思い出になるでしょう」というほどの感激ぶり。

□……BSC・レーベルゲは一九四五年創立、7競技千六百人の会員をもっている。このうちハンドボールは男女380人、年令、実力などで15クラスに分かれ、男女成年の第1チームがリーグに出場する。

少年クラスが9チームもあり、一家がハンドボール会員という例も少なくない。

「全国リーグ参加が目標にはちがいないが、それには優秀な選手を意識的に集めなければ、とうていムリ。今のところ楽しみながらのプレーで満足」（ランド団長）。

◆男子交歓試合（調布）

BSC・レーベルゲ、大崎電気シニア混成 20（9－8、11－10）18 大崎電気

＜得点者＞【レ・大混成】飯田9、フェニック、ホーブッシュ、ランド各3、小松原、谷口各1
【大】佐藤、井手、橋本、坂口各3能波、佐伯、椿原各2

中心はママさん選手

○……女子は、来日メンバーがリーグの主力でもあるが、平均年令30才半、エースのティール（163cm）は33才だし、パワープレーをみせたルーツ（178cm）は37才、最も若いフレッフ（172cm）さえ23才だ。

ラインハウゼン来日の時と同じように「技術的には学ぶものはなかったが、主婦になっても、ママになってもハンドボールができる環境がうらやましい」という日本選手の感想が、ただ一つの、それでいて、なんとも大きくみえる"収獲"の大会であった。

「スコアブック」草稿まとまる

日本協会技術委員会（旧・技術部）ではかねてから研究を進めてきた「スコアブック」の草稿をこのほどまとめた。細部に検討を加えたうえ、年度内に一般販売にこぎつけたい意向だが、読者からの意見を求めている。

日本協会技術委員会

◇はじめに

世は情報化時代といわれる。スポーツの世界においても例外ではない。しかし、ハンドボール界における情報化は野球などと比較すると、これまでのところ著しく不十分であったと言わざるを得ない。

そこで今般、技術部（注・52年度からは技術委）では、情報化の一つの試みとしてヨーロッパの例などを参考にハンドボールの「スコアブック」を考えてみたので、ここにご紹介したい。

◇「スコアブック」の概要

「スコアブック」は＜試合成績一覧表＞＜ゲーム総括表＞＜シュート集計表＞＜シュート状況表＞の4種から成る。

1、試合成績一覧表

この表は「スコアブック」の目次に相当する部分である。

試合の基本的な項目すなわち、大会名、会場、チーム名、得点、日時を試合後に記入する。

2、ゲーム総括表

この表は、試合中に記録した資料を集めて、その試合を総括するために用いる。

通常、味方、相手の2枚を作成す。また、味方でないチーム同志の試合を記録してもよい。

記入する場合、ゲーム総括欄には必ず、そのゲームの総括、反省などをとりまとめる。

防禦攻撃陣型欄には、そのチームの基本型を選手名（背番号）が判別できるように記入する。

選手個人欄は、もっとも重要な事項である。できるだけ詳しく記入したい。味方チームについては適宜、省略しても構わないが、定期的には体力測定値などを記録しておくと効果的である。

3、シュート集計表

試合後、シュート状況表(後述)をもとにして、前後半別、味方、相手別の4枚作成する。

4枚は味方・相手別、得点・シュート・ミス別に集計してもよい（この場合、チエンシュートに注意する）

総評欄には味方、相手双方のシュート力の評価、キーパーの評価ディフェンスのくせなど気付いた事項を要領よくまとめておく。

記入にあたっては、シューターを③、③……（番号を△で囲む）得点を——→

シュートミス——　などのように略号を用いる。

なお、「シュート集計表」は別掲のサンプル(様式)と同様の内容で相手チーム分も作成できるように配意する。

4、シュート状況表

試合の得点経過を逐一記録するもっとも基本的な資料である。

習熟度または試合展開によっては、すべての経過を記入するのが困難な場合も考えられるので、2名で分担記入するとか、次のように段階的に記入するなどの工夫が必要である。

a、シュート時の状態（得点、失点、シュートミス）のみ記入

b、aに加え反則も記入

c、bに加えシュートに至る経過も記入、

略号は次のようなものを用いる

N＝ノーマークシュート
L＝ロングシュート
M＝ミドルシュート
P＝ポスト
S＝サイド
F＝フリースロー
7＝ペナルティ・スロー
②＝攻撃メンバー（背番号2）
③＝防禦メンバー（背番号3）
…→＝人の動き
〰→＝ドリブル
——→＝ボールの動き
⬇＝得点
——＝シュートミス

◇「スコアブック」のねらい

1、＜ゲーム総括表＞は、ある試合の基本的情報、すなわち試合名日時、場所、チーム名、得失点、陣型から選手個人の成績特徴までを具体的に記入して、また最後に試合のポイントを文章で総括するようになっている。

通常、味方、相手の2枚を作成するが、勿論、第三者同志の試合を記入してもよい。

味方チームの個人成績を具体的に記録しておけば、練習で選手の長所を焦点的に伸ばしたり、弱点を強化することに役立つ。

また、定期的な体力測定（ボール投げ、100m疾走、千五百m走など）の記録、健康診断（身長、体重、胸囲、健康状態）の記録をとっておけば、より科学的な考察が可能となる。

相手チームの選手の記録をとっておけば、次の試合までに事前の対策が立てやすくなり、あるいはこれがやらずもがなの失点を防ぐことになるかも知れない。

2、＜シュート集計表＞は＜シュート状況表＞をもとに、前半・後半別、味方・相手別の4枚を集計する。

味方チームの得点のページを見れば、相手チームのディフェンスの弱点、ゴールキーパーの弱点を傾向的に把えることができ、またどの角度からのどの位置へのシュートが効果的であったか判明する

相手チームのページを見れば、味方のディフェンスの強化、ゴールキーパーの弱点の是正に役立てることができ、そして相手シューターの癖も判明する。

これらは練習で、具体的な目標を立て易くなり、また、次の試合で実戦的な戦術を立てる際に、極めて有効な資料になるハズである

3、＜シュート状況表＞は、シュートの経過を成功、失敗にかかわらず逐一記録することによって、あとで試合の再現を可能にせんとするものである。

特に＜ゲーム総括表＞や、＜シュート集計表＞では判別し難しアシストからのシュートに至るきっかけや、フォーメイションを把握すれば、味方の得点力の強化や、失点の減少に役立つハズである。

また、この分析中に判明した重要事項のポイントを＜ゲーム総括表＞や＜シュート集計表＞に総括しておけば、次の試合の作戦を立てる上で有効である。

以上のように、この「スコアブック」は、試合前に選手に与える注意事項の資料のみに限らず、練習における具体的な目標の設定や攻撃、防禦フォーメイションの改善、メンバーチェンジの工夫など戦術面の強化などにも役立てるべきである。

そうすれば、ハンドボールの大きな要素である精神力を、単なる根性から合理的、実証的なヘッドワークをともなった、さらに強固なものに発展させることができるであろう。

◇おわりに

この「スコアブック」はなにぶん初めての試みであり、不充分な点も多く懸念されるが、皆様のご意見を参考に、さらによいものに育てていきたいと考えている。

日本協会は、過去にいちど「スコアブック」を、ある出版社に依頼されて、監修し、一般に売り出している。しかし、近年のハンドボールは、プレーがいっそうち密化、高度化し、その戦術が復雑かつ高等なものになっている。

また、相手チームに対する研究もさかんとなり、データー収集は策戦上欠かせない。

有力各チームでは、独自の「スコアブック」を考案し、役立てているようだが、日本協会に対してこの面での新研究を望む声も高かったのである。ヴィデオテープあるいは8ミリフィルム全盛の中でペーパーによるデータ収集は将来への資料、史的データとしても評価されるべきものがあろう。

シュート集計表

チーム	A大	○ 前半	シュート数　20	得点数　10	率　50.0%
		後　半	(除くＰＴ　15)	(除くＰＴ　5)	(除くＰＴ33.3%)
総評	・③ロング，右上が良かった ・相手ＧＫ，左上は滅法強い ・左サイドの攻めが少ない ・②の左上は読まれている				

試合成績一覧表（記入例）

No.	大会名	会場	チーム	対	チーム	年月日	スローオフ
1	関東大学リーグ	駒沢第二球技場	A 大	25 {10－5 / 15－7} 12	B 大	52. 5. 20	11 : 30 A 大
2	〃	〃	A 大	20 {10－10 / 10－5} 15	C 大	52. 5. 30	14 : 00 C 大

ゲーム総括表（記入例）

試合名	年月日 時：分～時：分	場所	コンディション	室温 25℃	審判	記入者
関東大学リーグ	52. 5. 20 11：30～12：50	駒沢第二球技場			鈴木 / 佐藤	清水

得点	A大 25 {10－5 / 15－7} 12 B大	A大 防御攻撃陣型
ゲーム総括	A大は前後半ともロングが決まり楽勝。 B大はロング、サイドとも弱いが2番の速攻が良い。A大3番の戻りに注意。 B大は前半10分で精神的にもろい面が出た。	

チーム		A 大	シュート			得点			得点率%			アシスト	反則（退場）	身長	体重	走力	投力	特記事項
No.	ポジション	氏名	前半	後半	トータル（除PT）	前半	後半	トータル（除PT）	前半	後半	トータル（除PT）							
1	F	山田一失	7	3	10 (5)	5	2	7 (2)	71	60	70 (40)	3	5 (1)	178	70	上 ㊥ 下	左 右 ㊤ 中 下	•サウスポー •ディフェンスは弱い •左サイドシュートもうまい

シュート状況表（記入例）

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

日本協会公認審判員
中央研修会報告

大塚文雄

日本協会公認審判員中央研修会は、3月21、22日東京渋谷の岸記念体育会館で行われ、安藤純光審判部長、藤田八郎、嶋田新太郎両審査員をはじめ各ブロック、各全国連盟、各都道府県協会審判部長ら43名が出席した。

会は、安藤部長が、昭和52年度から審判部が審判委員会に改称されるという日本協会方針を説明したあと審判界の現状と今後の施策について、大要次のように述べ、議事の口火を切った。

〔審判界の現況と今後の施策について〕

①JHAレフェリーコース……若い優秀なレフェリの育成を目的としたコースが、今年度より実施され89名が受講。

当初、審判部では20～30名程度とみて、体協の大会議室を予定していたが、〆切り5日前頃で60名となり急きょ青少年センターを予約。さらに2～3日後には90名近くに達して、再び会場を日体大に変更した。正にうれしい誤算であった。

したがって、体協—日体大の会場変更の緊急連絡を、各都道府県協会部長から受講生にしていただきたい。

このコースは、前、後期それぞれテストをするが、前期の結果、不合格の結果が出た場合には、後期（8月）の始まる前日に再試験を行う。

実技テストは、前期は行わず、後期までの間に、各都道府県で5試合以上吹き、各部長は手帳に評価を記入し、提出させる。

②都道府県協会審判部の組織づくり……日本協会の審判委は、現在、都道府県審判部長—ブロック部長—各全国連盟審判部長—審判審査委員会—ルール研究委員会という組織で構成されているが、各県でもそれぞれ、このような組織づくりに取りくみ、審判員の資質向上に努力して欲しい。

したがって、今後、各県に対する審判に関する連絡は部長宛に連絡する。

③全日本大会審判員名簿について……52年度の各全国大会の担当を例年どおり審判部合同委員会の手によって決定した。

日本リーグの割りあてについては、多少の変更もあるので、この時点での公表はさける。

日本リーグはA級審判員が吹くことになっているが、定年制などで足りない場合もおこり得るが、B級審判員で補う。

なお、昨シーズン、大会直前になって辞退者が出て、その大会の運営に支障をきたした例がある。

今後は、辞退の場合、早目にブロック審判部長に申し出るよう指導して欲しい。

〔講演・日本のレフェリーを部外者の立ち場からみて。勝繁夫氏（日本協会普及指導担当理事）〕

日本のレフェリーは、ロボットレフェリー、機械レフェリーになりすぎていないだろうか。

あまりにもルールブックに忠実で、きまじめというか応用が利かないというか、画一化されすぎている。

小さなミスを恐れずに、ハンドボールの本来のものを失なわず、プレーヤーが満足するような個性豊かな笛が吹けるように各自研究して欲しいものだ。　（要旨）

〔競技規則の解釈上の問題点について。藤田審査委員ほか〕

別掲のとおり「ペナルティスローコンテストによる勝敗の決定方法」が決定したほか、審判審査委員会の報告として次の4点が発表された。

①チャージングとプッシングにおけるレフェリーの位置が適切でないため、逆の判定をされている場合がある。

そのゲームのスピード、セットオフェンスの状態を勘案して、レフェリーの位置を考え、ゴールレフェリーとセンターレフェリーの任務を忠実に守り、レフェリーの交代期には適切な判断をもってあたり、オフェンスとディフェンスの位置と動きからみて決断のある判定を下すことが大切である。

②粗暴プレーへの判定が甘くなっている。シュートの時の粗暴行為がそのままになってしまっているが、ゴールインの後にも適切な処置をすべきである。警告、退場も思い切ってやって欲しい。

③ペナルティスローの〝基準〟を明確にもって判定すべきだ。同ケースでとるものも、とらないものもある。いちど見逃すととりにくくなるので注意。

④ミスジャッジのあとの処理が悪いために、繰り返してミスをおかすことになる。自信をもって笛を吹くことこそ肝要である。

このほか「よく鳴る笛を持て」という忠告が全レフェリーに対してなされた。

〔質疑応答〕問1　審判委の推せんする「笛」はどこのメーカーのものか。

答　残念ながら国産のものはよくない。アクメの「ザ・サンダー」というのがよい。

問2　審判着にサッカー協会制定のものを用いてよいか。

答　ハンドボール協会製の在庫がまったくないので、サッカーの上着に、ハンドボール協会のワッペンをつければ、それでよい。

問3　プレーヤーが、足がつったなどアクシデントで、故意に競技場外に出た場合、どう処置するか

答　両レフェリーは状況をよくみて、納得の上で交代選手の入場を認める。

問4　控審判員の役割として、レフェリーが明きらかにルール上のミスをした場合、そのゲームを止めることができるか。

答　不正交代については吹けるが、ルール上の問題の時には中断することができない。

もし、そのようなことが起きた場合には、主将がア

ピールできる。

問5　15の1(B)ボールが競技場の上の施設もしくは器具に触れ、ゴールエリア内に落ちた時は、どこでレフェリースローを行うか。

答　レフェリースローを行う場所は、ボールが落ちた地点ではなく、ボールがぶつかった場所の下である。したがってゴールエリア内の上にぶつかった時は、エリア内でレフェリースローはできないのでフリースローライン外で行う。

問6　13の6、14の8の条文にあるように、あとで違反者を罰するために、腕を数回上にあげる動作を、プレーが続行中(進行中)に実際行われているか。

答　各大会で実際に行われている。しかしタイミングが難しく、なるべく行うよう努力してもらいたい。

ジェスチャアーを必ずしなくとも、シュートのあとに、その行為が警告・退場に価すれば、警告または退場をとる。

問7　ゴールスローの笛は吹かなくてはいけないか。ゴールスローの笛が大きいため、選手が反則と間違いやすい。

答　ルール上は吹くとなっている。笛は少なくとも3種類ぐらいに吹き分けることが大切で、サイドラインゴールラインから明きらかに出た場合には、笛の音が無くてもよいぐらいの吹きかたでかまわない。

問8　ペナルティースローの時、センターレフェリーの位置は、どのあたりが適当か。

答　特にどこがいいという位置はない。選手がボールを正しく投げられたかどうかが見られればよい。あまり近いと視野が狭くなる。

このほか、藤田審査委員から、ゴール前のフリースローの行なわせかたがまちまちすぎる。正しい位置につかせてから行なわせるように指導して欲しい。また、安藤部長から、チャージングに関連して、最近プレーヤーが、パスする時にもジャンプして行うが、この時の身体接触の反則は、ほとんどディフェンス側の反則になっている。攻撃有利にならないようによく状況を見極める必要がある、という注意がなされた。

定年制(50才)を実施

議事の最後に安藤部長から、今後の審判委員会の活動について、次の3点が発言された。

①タイムキーパーとスコアラーの制度化について…現在、控審判員がタイムキーパーを兼ねているが将来は、これを制度化したい。

②レフェリー用バッグの作成について……競技規則書が入る大きさで、笛、手帳、コインなどを入れるものを作成する。

③レフェリーの定年制について…52年度より50才(50才を含む)までという定年制を実施する。これは全国大会のみ適用する。

リーグ型の順位決定方法(改正)

日本協会審判委は、3月の中央研修会で、「リーグ型の順位の決定方法」の改正を次のように決めた。

◆競技規則71頁「競技の運営の2競技会の形式」(ロ)リーグ型：総当たりで勝点法により順位を決定する方法。順位決定は次の順序で行う。

(1)、勝点を2、引き分け点を1、負点を0とし、点数の多いチームが上位となる。

(2)、(1)によって点数が同じチームが出た場合には当該チームの対戦結果により、勝チームが上位となる。

(3)　両チームの対戦結果が引き分けであったり、該当するチーム間の対戦結果が三つ巴であったりした場合には、全競技で得た点(得点)から、全競技で失った点(失点)を引き、多い方のチームが上位となる。

(全得点)――(全失点)

(4)、(1)(2)(3)をもっても順位が決定しない場合には、全競技で得た点(得点)の多いチームが上位となる。

ペナルティスローコンテストによる勝敗の決定方法

所定の競技時間が終了しても勝敗が決定しない場合には，ペナルティースローコンテストによって決定することができる。この場合原則として次の方法によって行なう。

1. ペナルティースローを行なうプレイヤーはその競技に登録されたフィールドプレイヤー（FP）でなければならない。ゴールキーパー（GK）も同様にその競技に登録されていなければならない。
2. 両チームの主将と2名のレフェリーが立ち合ってトスを行ない，使用するゴール（一方のゴール）と先投あるいは後投を決定する。
   例：(1)　トスに勝ったチームがゴールを選択した場合，トスに負けたチームは先投あるいは後投を選ぶことができる。
   (2)　トスに勝ったチームが先投あるいは後投を選んだ場合，トスに負けたチームはゴールを選択することができる。
3. 両チームよりそれぞれ3名のFPと1名のGKがセンターライン上に整列する，他のプレイヤーは，それぞれのベンチに看席する。
4. トスによって先投となったAチームのFP E・F・Gの3名のうち1名がスローを行なう次のスロアーは後投となったBチームのFP W・X・Yの3名のうちの1名である。以下交互に各一投づつペナルティースローを行なう
5. GKは，その都度入れかわるが，ゴールから出たGKは競技場外に出てゴールから6m以上はなれたところにいる。GKは交替することができる。
6. なお勝敗が決定しない場合には，新らたに10名のFP（E・F・GあるいはW・X・Yを含む）の中から1名がスローを行なう。このときおよび以後使用するゴールと先投あるいは後投はトスによって決定（2と同様にして）し，以下交互に勝敗の決するまでペナルティースローを行なう（スロアーは交替しても同一人でもよい)。
7. 発表は，P.T.C(Penalty Throw Contest)○対△とする。

例：

Aチーム16―{8―7 / 7―8 / 1―0 / 0―1}―16Bチーム

3 P.T.C. 2

（第1延長後P.T.Cによって勝敗を決定した場合の例）

☆★☆★☆★☆

海外トピックス

杉山　茂
(NHK運動部・慶大OB)

圧倒的な東欧女子

ユーゴ、2大会に優勝

すでに、いろいろな所に書かれているので、ご承知の読者も多いと思うが、ヨーロッパにおける女子スポーツ(特にチームスポーツ)は、競技というよりも健康の手段としての色彩が強く打ち出されているため、いわゆるトップに立って競技主体にスポーツをとらえている層は、さほど多くない。特に西側諸国は第一線レベルでも、あまり勝負々々というわけではなさそう。ハンドボールの場合も、国際大会などで活躍が伝えられてくるのは、圧倒的に社会主義国だ。

今年に入って、三つの大きなトーナメントが行われたが、いずれも上位は、いわゆる東欧勢。わずかに「スラスクカップ(ポーランド)」でスウェーデンが4位に食いこんだのが目立つ程度である。

「スラスクカップ」はルーマニアが決勝で東ドイツを15—8で破り優勝、3位はブルガリア。

4カ国による「ポーラーカップ(ノルウェー)」もユーゴ、東ドイツ、ソ連の激しい争いの末、ユーゴ、東ドイツを得失点差でおさえ優勝、地元ノルウェーは完敗した

ビッグトーナメントの一つ「チェコ国際」は、東欧8カ国が参加して行われ、ユーゴ、チェコ、ルーマニア、ソ連が決勝リーグ。

ユーゴがソ連に17—13、チェコに20—19、ルーマニアに17—17(引き分け)という成績で優勝を飾った。

モントリオールの女王・ソ連はやや低調で「スラスク・カップ」では最下位(参加8カ国)に甘んじている。

目立つイタリアの動き

男子でこのところ目ざましい動きをみせているのがイタリアだ。

昨年くれ、フォルリでジュニアトーナメントを開き、スイス、オーストリアなどをおさえて優勝したし、ナショナルチームもこの3カ月の間にユーゴB、スイス、オーストリア、イスラエルらと7戦スイスと11—11の引き分けのほかオーストリアに13—14まで肉迫している。ローマでのイスラエル戦は24—24、14—14と2試合とも勝負がつかなかった。

次回の世界選手権では、なんとかBグループまで進みたいという関係者の希望は、この熱意があれば果たせるのではなかろうか。

ヨーロッパ・カップ

大詰めを迎えた第17回男子は、決勝(4月24日)の組み合せが、チェスカ・モスクワ(ソ連)×ステアウア・ブカレスト(ルーマニア)に決まった。

チェスカは準決勝でVfL・グンメルスバッハ(西ドイツ)を20—18、15—15(引き分け)で破ったもので、グンメルスバッハにとってはドルトムントのホームゲームを、2点差で落としたのが痛恨事になった。

グンメルスバッハは、ベテランの巨砲シュミットが、下部リーグのTbd・ウルフラスに移ったりして、西ドイツリーグでも冴えがなく、決勝進出の望みがうすいだけに、来年のヨーロッパカップ出場は早くも絶望といってよい。

ブカレストは、KFUM・フレデルシア(デンマーク)の食い下りを29—22、19—19(引き分け)で退けた。

両者の決勝は、オリンピック・ファイナルのミニ版、エキサイトした展開になろう。

第16回女子は、ベストフォアにラドニッキ・ベルグラード(ユーゴ)、スパルタク・キェフ(ソ連)SC・ライプチユ(東ドイツ)、ベスター・IL・オスロ(ノルウェー)が勝ち残った。

くじ運に恵れたとはいえオスロの健闘は注目に価する。

激戦を演じたのはキエフ×SC・バサス・ブダペスト(ハンガリー)で、第1戦をブダペストが13—10でとり優位に立ったが、ライプチヒでの第2戦でホームチームは驚異的な粘りから13—8で勝利を握った。

ベルグラードは、強豪テイミソアラ大学(ルーマニア)を18—11 12—10で降しての進出。

ウインナーズ・カップ

男子(第2回)は、前回優勝の日本でもおなじみのバロンマノ・グラノリエルスが準々決勝で、SC・マグデブルグ(東ドイツ)に36—18、31—22で敗れ、連覇の夢が消えた。

このほかMAI・モスクワ(ソ連)、パルチザン・ブジェロバル(ユーゴ)、アトレティーコ・マドリッド(スペイン)がベストフォア入りし、さらにモスクワがマドリッドを制して決勝進出を早くも決めている。

国内トピックス

【投稿歓迎・500字以内】

★伝統の高校定期戦"旭陵戦"

　愛知県下の名門で、戦前からのライバルである愛知一中と愛知五中の流れを引く旭丘高（一中）と瑞陵高（五中）の定期戦が20年目を迎え、春分の日、瑞陵高体育館で交歓した。

　両校とも、トップゾーンの愛知ハンドボール界にあって球歴は古く、今年ともに30年目という。

　旭陵戦と呼ばれるこの定期戦は昭和32年夏、瑞陵高OB・関口昇氏の提唱で始められた。

　両校ともいまや県内有数の進学校になったが、県内中堅のレベルを誇り、伝統をうけついでいる。

　この日の定期戦はOB戦が18－18、現役戦が11－11といずれも引き分け、現役戦の通算成績は9勝9敗2引分けと、何もかも互角に終った。（愛知・川島克之）

★久留米でチビッコ好プレー

　昨年くれ久留米市（福岡）室内選手権大会の前座試合に、子供たちへのハンドボール競技普及の一環としてBSスポーツ少年団員（小学校4～6年生）による紅白試合を行ったが、一週1回（1時間半）約2カ月の指導にもかかわらず、随所に好プレーを展開し、練習の成果を十分に発揮した。

　初めての競技参加ということでほとんどの父兄が会場に詰めかけ、子供たちのプレーに盛んに拍手を送っていた。

　参加したチビッコたちは、口を揃えて、ハンドボールの面白さを語り、これからもさらに続けたい意向が強かった。

　また、応援にかけつけた父兄もハンドボールが見て楽しい競技であることを確認したようだ。

　久留米市では一般、高校以外はチームがなく、他競技に比べ競技人口も少なく、これを機に、このような試合を積極的に企画、底辺の拡大に寄与したと考えている。

（福岡・長野農夫男）

★国体優勝を機に底辺拡大

　大成功に終った佐賀"若楠"国体の年の最後の行事として佐賀協会はこのほど佐賀県体育館で、文字どおりの"総合"選手権を開いた。

　大会は"ハンドボール人口を増そう"というスローガンのもとに底辺の拡大、競技の普及を目的として行われたが、一般、高校はもとより小学生の部、中学生の部にも参加者が目立ち、合わせて60チームが顔を揃えた。

　このため、三日間とも午前9時から夜8時すぎまでというロングランで日程を消化したが、まずまずの成果。

　国体総合優勝を契機にして、よりいっそう佐賀のハンドボールが成長するよう関係者全員で努力することを誓った。

（佐賀・福田省二）

★首相園遊会に古佐原選手ら

　福田首相による初の国内スポーツ界関係者招待パーティが、3月28日東京永田町の首相官邸で開かれた。

　当初は、アマチュアスポーツ関係者とスポーツ施策を語りあう会のように伝えられていたが、その後、大幅にワクが拡がりプロスポーツも含む800人の"大集会"となった。

　ハンドボール界からは役員の代表として大野、勝、境井の3理事選手の代表でオリンピックチームの古佐原（東京重機）、加藤、穂積（ともに日本ビクター）ら5選手が出席した。

★兵庫協会が「28年史」

　このところ各都道府県協会による協会史の刊行計画が目立っているが、このほど兵庫協会は「28周年記念誌」（A4判、98頁）を発行した。

　国際試合や国体、全日本総合など業績の多い兵庫協会だけに、バラエティに富んだ好内容である。

ハンドボール・タウン

　日本協会普及指導委員会による「土曜の集い」が2年目に入ります。

　今年も東京地区は原則として毎月第3土曜日の午後5時から2時間、代々木の東京オリンピック記念青少年総合センターを会場にして開かれます。参加資格はいっさい問わず。費用は一人百円です。

　5月だけは28日（第4土曜）です。お間違いのないように。

　会場への交通は、

・京王帝都バス＝新宿西口から渋谷東横前行き、渋谷西口から新宿京王百貨店行き、いずれも「代々木5丁目」下車2分。

・小田急「参宮橋」下車5分

・地下鉄千代田線「代々木公園」下車5分

・車利用のかたは首都高速4号線代々木ランプを目標にして下さい

ブラザー工業初の栄冠

NBN杯 全国女子

第5回NBN（名古屋テレビ）杯全国選抜女子大会は全日本実連の主催で3月19、20、21日の3日間名古屋市体育館に日本リーグ加盟の3チームが集まり、2回総当り戦を行い、地元ブラザー工業（愛知）が初優勝した。

ブラザー工業（愛知） 7（3－3、4－4）7 ジャスコ（三重）　引き分け
日立栃木（栃木） 9（4－2、5－4）6 ジャスコ
日立栃木 13（6－7、7－3）10 ジャスコ
ブラザー工業 9（3－1、6－4）5 日立栃木
ジャスコ 15（10－5、5－3）8 ブラザー工業
ブラザー工業 10（6－3、4－3）6 日立栃木

【順位】①ブラザー工業2勝1分1敗②日立栃木2勝2敗③ジャスコ1勝1分2敗

○……3チームによる2回総当りというめずらしい方式が、波乱を呼んで、シーズン初めの大会としては熱がこもった。

前回1位のジャスコが、日立に走り負けて2敗、あっさり2連勝の望みを捨てたが、ブラザー戦には意地をみせて大差をつけ、これで日立が大きく浮かびあがった。

優勝をかけたブラザ1×日立2回戦は、ブラザーが前半15分5－1とリードする出足のよさで優位に立った。

日立も粘り、後半10分5－7と逆転の望みをつないだのだが、ブラザーは11分PT、12分山中で突き放し、チーム創立10年目で初の全国タイトルを手中にした。

この大会を最後に退陣する佐々木、国府田の活躍と、エース小森が一まわり大きくなったのが勝因

各チームの新戦力では最優秀新人賞を受けたジャスコ・辻本（市邨学園）、日立・水上（高岡女高）ブラザー・平井（岐阜南商）らの動きが目立った。

なお、最優秀選手は小森（ブラザー工業）、最高得点賞は13ゴールをあげた松下（ジャスコ）が2年連続、入場者の投票で選ぶこの大会独特のファンアピール賞は佐々木（ブラザー）に決まった。

【各チーム主戦力・○内数字は通算得点、□印は新人】▼ブラザー工業・K山本、浅谷、□屋比久、・F小森⑨、山中⑥、宮平⑥、国府田⑥、佐々木④、中川②、□平井①、岩井、楠研、木下、宮本、□植田

▼日立栃木・K桑谷、高橋、□寺沢、・F晴山⑨、島田⑨、小根沢（ま）⑤、荒木④、吉田③、山井①田村①、山戸①、□毛塚①、鈴井大輪、□水上、□山口、□小根沢（加）

▼ジャスコ・K久保、山本、・F松下⑬、金田⑦、河田⑦、鈴木④若田③、□辻本②、林①、平田、笠、□宮崎、□重村、□中原

「大同の蒲生」デビュー

男子実業団4強大会

朝日招待第4回全日本実業団男子選抜4強大会（第7回ビッグフォアリーグ）は4月16、17の両日広島県立体育館で行われ、ヨーロッパ帰りの湧永薬品（広島）が、スピーディなチームプレーに冴えをみせ初優勝を飾った。

各チームとも、有力新人を加え日本リーグの前哨戦としても興味深かったが、湧永が、スピードのある攻防にいちだんと安定を示し注目された。

リーグ2連勝を目指す大同特殊鋼（愛知）は、主力にアジア選手権の疲れがのぞいたが、花輪がいちだんと幅の広いプレーを身につけ中大から迎えた蒲生（得点王＝29点）の豪快な攻撃も、予想どおり大きな戦力。大崎は、GK岡部（明大）、能波（大体大＝新人賞）の加入でしまり、三景は山村を新主将に鈴木（早大）を入れて、巻き返しの態勢は充分ととのった感じである。

湧永薬品（広島） 22（11－4、11－9）13 大崎電気（埼玉）
大同特殊鋼（愛知） 35（18－6、17－10）16 三景（東京）
大崎電気 21（13－6、8－8）14 三景
大同特殊鋼 27（14－7、13－12）19 大崎電気
湧永薬品 22（10－6、12－3）9 三景
湧永薬品 19（11－8、8－7）15 大同特殊鋼

【順位】②湧永薬品3戦全勝②大同特殊鋼2勝1敗③大崎電気1勝2敗④三景3敗

大同、7連勝遂げる

東海実業団リーグ

第12回東海実業団選手権（男子）は昨年11月20日から2月27日まで6チームが、東海各地を転戦してリーグ戦で行われた。予想どおり大同特殊鋼（愛知）と本田技研鈴鹿（三重）が、全勝で最終日（岐阜）に対戦、大接戦の末、大同が辛勝、7年連続優勝を決めた。

（女子は昨年5月行われジャスコ（三重）が優勝している＝本誌143号）

大同特殊鋼（愛知） 31（17－6、14－10）16 新日鉄名古屋（愛知）
本田技研鈴鹿（三重） 25（12－8、13－5）13 大同特殊鋼高蔵（愛知）
トヨタ車体（愛知） 20（9－11、11－7）18 二和家具（岐阜）
本田技研鈴鹿 42（18－6、24－10）16 新日鉄名古屋
トヨタ車体 21（8－6、13－5）11 大同特殊鋼高蔵
大同特殊鋼 40（14－7、26－4）11 二和家具
新日鉄名古屋 19（6－9、13－10）19 大同特殊鋼高蔵　引き分け
本田技研鈴鹿 37（14－7、23－9）16 二和家具
大同特殊鋼 31（17－7、14－10）17 トヨタ車体
大同特殊鋼 20（11－10、9－5）15 大同特殊鋼高蔵
本田技研鈴鹿 34（21－2、13－12）14 トヨタ車体
新日鉄名古屋 21（7－7、14－11）18 二和家具
二和家具 16（8－6、8－5）11 大同特殊鋼高蔵
新日鉄名古屋 14（5－5、9－7）12 トヨタ車体
大同特殊鋼 19（10－9、9－8）17 本田技研鈴鹿

【順位】①大同特殊鋼5戦全勝②本田技研鈴鹿4勝1敗③新日鉄名古屋2勝1分2敗④トヨタ車体2勝3敗⑤二和家具1勝4敗⑥大同特殊鋼蔵1分4敗

関東予選 追加記録　本誌前号35頁・全国実業団トーナメント関東予選記事のうち、次の2試合のスコアが脱けていましたので追加します。

東京重機 31－14 原子力研究所
丸善研油 21－18 出光千葉
三井研油化学 20－12 日産石油

世界へはばたけ日本のハンドボール

（協賛者御芳名・順不同）

美津濃 adidas 特約店
昌永スポーツ
甲府市中央四丁目桜りアーケード街

高級帯地
一秀
京都市上京区堀川通今出川下ル西側
西陣産業会館内
TEL (075) 431—0147

京都染色資材株式会社
出野勝志
京都市中京区壬生大竹町54
TEL (075) 811—5531

スプリンター・スターレットの
トヨタオートヤサカ株式会社
本社　京都市中京区壬生仙念町5番地
TEL (075) 802—0151(大代表)

全道一を誇るスポーツ用品専門店
(株) スポーツハウス
釧路営業所　釧路市北大通10丁目
(23) —1526

松の寿司
植田和子
(清水市立商業高等学校ハンドボール部3年生)
清水市銀座1番3号　TEL66—3063

塩山病院
山梨県塩山市上於曽

株式会社 **加藤組**
代表取締役　加藤　憲
函館市千才町3—2

鳥のデパート<鳥料理>
たぐち会館
田口欽一(旧姓　湯山)
(昭45日本体育大学ハンドボール部卒業)
静岡県清水市銀座12番12号

ソニービデオとトリニトロンカラーの専門店
寿電化サービス
代表者　川口　攻
山梨県甲府市宝2丁目27—14
電話 0552—26—0319

技術と経験で奉仕する店
望月スポーツ
釧路市錦町5—1 電(23)—7255
支店くしろデパートスポーツコーナー　電(24—4721

たのしく学ぶ　明るい学園
学校法人　花園学園
梅花幼稚園
静岡県清水市南岡町3—8

地場産業に貢献する
奥山不動産
代表取締役　奥山仙治郎
甲府市丸の内2丁目14—3
電話(0552)24—3265・5698

株式会社 **松本組**
取締役社長　松本演之
本社　函館市吉川町4番30号
札幌支店　札幌市北区37条西4丁目安田ビル5F

茂津目精肉店
茂津目勝仁
(静岡県清水商高男子ハンドボール部父母の会顧問)
静岡県清水市桜ケ丘54　TEL 0543—52—1951

上田茂行

山梨県ハンドボール協会
会長　植野　保

山梨県ハンドボール協会
副会長　天川正次

能登・和倉温泉
政府登録 国際観光旅館 **加賀屋**
石川県七尾市和倉温泉・TEL大代表(076762)2111

株式会社 **函館小型運送**
本社営業所　函館市西桔梗町589番地
(流通センター内)
電話(0138)代表49—5131
札幌連絡所　札幌市白石区菊水元町73
電話 (011) 861—8178

各地の記録

九州男子は小倉西が制す

新チームによるブロック大会は例年どおり、今季も九州、東海、北海道の三地域で行われた。

男女34チームによって62試合の激戦が演じられた九州は、男子が福岡勢、女子が熊本勢と最上位の実力がはっきり示され、小倉西と熊本市立がそれぞれ優勝を飾った。

男子で興南（沖縄）が、決勝寸前まで進出し、注目された。

各県新人戦1位による東海は、男女とも接戦模様となったが、男子は四日市工（三重）が静岡農林（静岡）に逆転勝ち、女子は、岩津（愛知）が、1回戦で清水市商（静岡）にPT勝ちした富田女（三重）を押し切った。

各地区レベルの均こう化が見られる北海道は、男子で函館有斗が新進・旭川東を破り優勝、女子は函館勢の争いから函館商が女商を降した。

第5回九州高校生（3月26～28日・熊本女商高グランド・男女各17チーム）

▽男子予選リーグA組
国分(鹿)11-10延岡商(宮)
熊本一工(熊)16-9神埼農(佐)
熊本一工 25-4 延岡商
国分 10-9 神埼農
熊本一工 21-14 国分
神埼農 16-9 延岡商

▽同B組
興南(沖)25-9都城商(宮)
済々黌(熊)17-12佐賀農(佐)
佐賀農 19-13 都城商
興南 19-9 済々黌
済々黌 22-10 都城商
興南 21-15 佐賀農

▽同C組
小倉工(福)15-6大分東(大)
沖縄工(沖)13-10口加(長)
小倉工 19-10 口加
沖縄工 15-10 大分東
大分東 12-9 口加
小倉工 20-11 沖縄工

▽同D組
大分電波(大)15-11熊本市商(熊)
佐世保西(長)13-8隼人工(鹿)
小倉西(福)20-12熊本市商
大分電波 20-13 隼人工
小倉西 18-8 佐世保西
小倉西 18-11 大分電波
佐世保西 21-15 熊本市商
小倉西 23-11 隼人工
佐世保西 15-11 大分電波
熊本市商 22-16 隼人工

▽同決勝トーナメント1回戦（＝準決勝）
小倉西 11(5-6, 6-3)9 熊本一工
小倉工 16(7-7, 9-6)13 興南

▽同決勝
小倉西 15(8-5, 7-3)8 小倉工

▽女子予選リーグA組
熊本女商(熊)14-3鹿屋女(鹿)
佐世保商(長)13-5佐賀東(佐)
鹿屋女 12-5 佐賀東
熊本女商 14-3 佐世保商
鹿屋女 8-7 佐世保商
熊本女商 25-3 佐賀東

▽同B組
神埼農(佐)10-6島原農(長)
大分東(大)11-6川内商工(鹿)
神埼農(佐)16-3川内商工
島原農 9-7 大分東
島原農 13-7 川内商工
大分東 10-8 神埼農

▽同C組
東海大五(福)11-11小林商(宮)（分）
熊本市立(熊)12-5東海大五
東海大五 13-4 知念(沖)
熊本市立 14-8 知念
熊本市立 4-4 小林商（分）
小林商 8-7 知念

▽同D組
延岡(宮)8-6氷川(熊)
浦添(沖)9-6別府青山(大)
延岡 11-2 浮羽(福)
別府青山 14-4 氷川
浦添 12-2 浮羽
延岡 5-4 浦添
別府青山 15-1 浮羽
氷川 10-9 浦添
別府青山 10-4 延岡
氷川 12-2 浮羽

▽同決勝トーナメント1回戦（＝準決勝）
熊本女商 10(7-3, 3-4)7 神埼農
熊本市立 8(3-2, 4-5…0-0, 1-0)7 別府青山

▽同決勝
熊本市立 7(4-3, 3-3)6 熊本女商

第5回東海高校室内（2月20日・四日市市体育館・男女各4チーム）

▽男子1回戦（＝準決勝）
静岡農林(静岡) 25(16-6, 9-5)11 中京(愛知)
四日市工(三重) 15(5-5, 10-3)8 加納(岐阜)

▽同決勝
四日市工 16(7-8, 9-7)15 静岡農林

▽女子1回戦（＝準決勝）
富田女(三重) 8(2-4, 6-4)8 清水市商(静岡)
引き分け
PTコンテストで富田女の勝ち
岩津(愛知) 7(1-1, 6-2)3 津女(三重)

▽同決勝
岩津 11(6-5, 5-4)9 富田女

第16回全道高校新人戦（51年12月25、26日・室蘭市体育館）

▽男子準決勝
函館有斗 22-7 室蘭清水丘
旭川東 15-5 札幌南

▽同決勝
函館有斗 27(12-0, 15-3)3 旭川東

▽女子準決勝
函館女商 19-12 恵庭南

▽同決勝
函館商 9(5-3, 4-3)6 函館女商

本田技、大同かわせず

NHK（名古屋）杯をかけた第16回東海室内選手権は2月20日、東海4県の予選勝者、男女各4チームが四日市市体育館に集まりトーナメントで行われた。

男子は、4年つづけて大同（愛知）×本田(三重)の争いとなり、本田が好調に試合を進め、終盤までリードを奪っていたが、大同は残り5分を切ってからの反撃に成功、鮮やかな逆転勝ちをおさめ、3年連続6度目の優勝を飾った。

女子も日本リーグ加盟同士のジャスコ(三重)×ブラザー工業（愛知）が優勝を争い、ジャスコが先行するブラザーを終了直前につかまえて引き分け、両者優勝となった。ジャスコは2連勝、ブラザーは初優勝。

▽男子準決勝（＝1回戦）
大同特殊鋼(愛知) 31(14-5, 17-6)11 岐阜教員(岐阜)

鈴鹿本田技研 36（16－5、20－4）9 静岡教員団

▽同決勝

大同特殊鋼 11（5－7、6－3）10 本田技研鈴鹿

▽女子準決勝（＝1回戦）

ジャスコ（三重）15（7－2、8－2）4 静岡城北ク（静岡）

プラザー工業（愛知）22（12－0、10－1）1 笠松ク（岐阜）

▽同決勝

ジャスコ 6（4－2、2－4）6 プラザー工業

引き分け

一般男子は氷見ク

▼第16回富山県室内選手権（2月 富山市体育館）

▽一般男子1回戦（2試合）

想球会 18－17 富山大

八尾ク 24－22 富山教員

▽同準決勝

H・HC 22－13 想球会

氷見ク 23－14

▽同決勝

氷見ク 20（11－4、9－9）13 H・HC

▽高校男子準々決勝

氷見 33－6 二上

日大高岡 9－8 富山東

小杉 7－3 富山

高岡商 16－6 伏木

▽同準決勝

氷見 23－2 日大高岡

高岡商 17－3 小杉

▽同決勝

氷見 16（11－4、5－9）13 高岡商

▽同女子準々決勝

有磯 37－0 清光

小杉 17－0 富山女短附

富山女 8－6 富山北

高岡女 15－1 高岡一

▽同準決勝

有磯 11－8 小杉

高岡女 12－6 富山女

▽同決勝

有磯 10（5－4、5－2）6 高岡女

ワコール9戦全勝

▼第2回京都社会人リーグ（男子のみ）

▽1部

ワコール 23－14 海上自衛隊

伏見ク 17－14 星友会

レッドバロン 棄権 平安送球会

京都教員 25－17 塔南ク

洛東ク 12－10 嵯峨野ク

ワコール 棄権 星友会

海上自衛隊 棄権 平安送球会

伏見ク 16－13 塔南ク

レッドバロン 19－6 洛東ク

京都教員 20（分）20 嵯峨野ク

ワコール 23－11 平安送球会

伏見ク 棄権 海上自衛隊

京都教員 28－15 星友会

嵯峨野ク 19－17 塔南ク

レッドバロン 棄権 海上自衛隊

平安送球会 14－10 洛東ク

ワコール 22－7 塔南ク

伏見ク 16－8 平安送球会

星友会 23－18 レッドバロン

京都教員 19－15 海上自衛隊

嵯峨野ク 15（分）15 海上自衛隊

平安送球会 棄権 京都教員

嵯峨野ク 棄権 星友会

ワコール 15－9 洛東ク

嵯峨野ク 棄権 平安送球会

レッドバロン 28－15 塔南ク

伏見ク 20－17 洛東ク

洛東ク 12－11 京都教員

塔南ク 13（分）13 星友会

ワコール 23－11 嵯峨野ク

塔南ク 23－12 洛東ク

平安送球会 棄権 星友会

レッドバロン 34－14 嵯峨野ク

洛東ク 棄権 海上自衛隊

塔南ク 棄権 平安送球会

洛東ク 棄権 星友会

ワコール 棄権 京都教員

塔南ク 12－6 海上自衛隊

レッドバロン 14－13 京都教員

海上自衛隊 棄権 星友会

ワコール 14－10 レッドバロン

京都教員 18－11 伏見ク

伏見ク 棄権 レッドバロン

ワコール 14－9 伏見ク

【順位】①ワコール9戦全勝②伏見ク7勝2敗③レッドバロン6勝3敗④京都教員4勝1分4敗⑤嵯峨野ク⑥洛東ク4勝5敗⑦塔南ク3勝1分5敗⑧平安送球会3勝6敗⑨海上自衛隊2勝1分6敗⑩星友会1勝1分7敗

【2部順位】①東山ク6勝1分②新星シューターズ6勝1敗③日吉ケ丘ク4勝2分1敗④大谷ク3勝1分3敗⑤シルピア⑥三菱電機⑦篁会⑧広喜工務店

関東学生、5月の日程

関東学生春季リーグは、4月23日駒沢屋内球技場で開幕したが、5月の日程（男子及び女子1部）は次のとおり。東京教大は今季から筑波大と改称。

▽5月1日・中×明、早×法、筑波×慶、日大×日体、女子＝東女体×日女体、日体×学芸

▽5日・筑波×明、早×日体、日×法、中×慶、女子＝東女×筑波学芸×日女体

▽7日・早×慶、筑波×法、中×日体、日大×明、女子＝東女体×筑波、学芸×日女体

▽12日・慶×明、早×日大、女子＝日体×日女体、筑波×学芸

▽13日・日体×法、中×筑波、女子＝日体×日女体、筑波×学芸

▽18日・慶×法、日体×明、早×筑波、中×日大、女子＝日女体×筑波、日体×東女体

▽21日（最終日）・明×法、日体×慶、日大×筑波、中×早、女子＝日女体×筑波、日体×東女体

会場は7、18、21日が駒沢体育館、このほかは駒沢屋内球技場。女子は2回戦制。

★編集後記★

□……4月はじめ、クウェートからどっかと航空便。

安藤国際審判員が「一日でも早いほうがよいだろうと思って」と、それまでの試合広報などを送ってくれたものでした。

おかげで編集は大助かり。なぜか外電の乏しかったアジア選手権の詳報をお届けすることができました。感謝します。

□……嬉しいのは、機関誌のためにとか、このニュース、お知らせを機関誌で、という傾向が最近いっそう強まったことです。

今月号から「国内トピックス」欄を設けたのも、そのためです。ハンドボールのことならなんでも判る雑誌——それは編集委が小さな活動範囲で造るのではなく、皆さんの多彩な寄稿、投稿が主となってはじめてできあがります。

□……日本協会の体制替えにのって、編集委員会も早ければ7月号から新しいスタッフとシステムで運営する手ハズをととのえています。

要望の多い技術論や講座も、技術委員会が担当してくれることになりました。

40才になった日本協会の歩みは、どっしりと地についているように見えるのですが—（S）。

記録特集号（本誌150号）の正誤表

2月発行の第150号〈記録特集号〉のうち、次のような誤りや追加がありますので訂正して下さい。お詫びするとともに、正しい資料、新しい資料の提供に対しお礼申します。今後も引きつづきご協力下さい。

▽7頁1段目　日本×カナダ戦カナダ個人得点・GKルフェーブルに1を追加。合計点を19に訂正。

▽9頁2段目　ルーマニア×日本戦ルーマニア個人得点・モーゼル1を11に訂正。

▽16頁1段目　東ドイツ×日本戦の審判は安藤・佐野。

▽17頁5段目【最終順位】の3位をポーランド、4位をソ連に訂正

▽21頁5段目　全台北×全天草戦のスコアを27－26に訂正。

▽22頁2段目　日本×在日ドイツ人選抜戦の日本メンバーにHB神田(日体)、FW小袋（日体）を追加。HB藤田は藤田（八）。

▽23頁2段目　日本×ビリナ選抜戦のスコアを21－4に訂正。

▽24頁5段目　高校男子の第1回遠征年月を37年8月に訂正。

▽28頁・第7回全日本総合選手権スコアのうち、前・後半の得点（　）内部分が次のように判明。

□男子2回戦

日体大 31 (17 14 / 6 2) 8 明星ク
芝浦工大 24 (13 11 / 4 3) 7 大阪市大
全関学 26 (11 15 / 4 3) 7 かがり火ク
教大 25 (13 12 / 2 2) 4 甲南大
山口ク 32 (15 17 / 1 2) 3 愛工OBク
日体大C 26 (17 9 / 10 2) 12 五陵ク
セントポール・ク 19 (9 10 / 2 4) 6 兵庫工ク
関大 19 (10 9 / 10 5) 15 全鎌倉ク
六陵ク 29 (14 15 / 5 1) 6 高津ク
西日本日体OB 26 (14 12 / 5 2) 7 大阪歯大
クローバー倶 14 (10 4 / 5 6) 11 教大B
愛知学芸大 11 (6 5 / 4 6) 10 明石ク
日体大B 10 (7 3 / 3 5) 8 全早大

□同3回戦

日体大 25 (15 10 / 9 6) 15 芝浦工大
全関学 28 (18 10 / 3 4) 7 兵庫ク
教大 18 (7 11 / 9 7) 16 山口ク
関大 12 (0 2 : 3 7 / 2 0 : 6 4) 12 セントポール・ク　引き分け
西日本日体OB 19 (6 13 / 10 1) 11 六陵ク
明大 16 (10 6 / 4 2) 6 クローバー倶
日体大B 19 (2 2 : 8 7 / 1 1 : 10 5) 17 愛知学芸大

□女子準々決勝

寝屋川ク 12 (7 5 / 0 1) 1 明石ク
稲沢ク 13 (4 9 / 0 2) 2 梅花ク
水海道二高ク 7 (4 3 / 2 2) 4 岸和田ク

▽29頁1、2段目　足利ク 棄権 関東学院高ク及び清水商高 棄権 三浦学苑クの2試合を次のように訂正

足利ク（栃木）15 (7 8 / 5 3) 8 関東学院高ク（神奈川）
清水商高（静岡）24 (11 13 / 1 1) 2 三浦学苑ク（神奈川）

▽29頁、第8回全日本総合選手権スコアのうち、前・後半の得点（　）内の部分が次のように判明

□男子1回戦　【この項静岡協会提供】

鎌倉学園OB 10 (3 7 / 3 6) 9 全立大
静大ク 12 (5 7 / 2 5) 7 明星ク
全早大 16 (3 2 : 4 7 / 3 1 : 6 5) 15 富山ク
全芝工大 29 (15 14 / 2 3) 5 愛知学芸大
全慶応 14 (8 6 / 5 7) 12 全静岡
全日体大 26 (14 12 / 2 6) 8 五陵ク
明大 25 (12 13 / 7 3) 10 奈良ク
桜丘会 14 (10 4 / 6 4) 10 全関学
日体大 19 (8 11 / 3 4) 7 鎌倉学園高
岡崎ク 8 (4 4 / 2 0) 2 慶大
芝浦工大 19 (10 9 / 3 4) 7 全茨城大

▽29頁3段目　全日体大×西日本日体OB戦の審判は岡村。

▽30頁　第10回全日本総合選手権スコアのうち、前・後半の得点（　）内の部分が次のように判明

□男子1回戦

徳山高OB 12 (7 5 / 6 5) 11 西南ク
京都ク 17 (6 11 / 8 1) 9 岡山工高
岩国工高 11 (7 4 / 2 1) 3 奈良高OB
下関幡生工高OB 14 (6 8 / 3 4) 7 奈良航空自衛隊幹部候補生学校
宇部工OB 18 (12 6 / 1 1) 2 都留ク
小倉工OB 17 (9 8 / 3 3) 6 四日市商高
全教大 20 (12 8 / 3 1) 4 下関西高旭陵ク
桜丘会 40 (22 18 / 4 3) 7 下関西高
呉ク 15 (10 5 / 4 2) 6 福岡工OB
山口ク 20 (11 9 / 11 4) 15 住化菊本
全芝工大 21 (15 6 / 5 2) 7 山口大
高津ク 20 (12 8 / 3 5) 8 済々黌高
中大 14 (7 7 / 2 5) 7 宇部曹達工業
下関幡生工高 21 (7 14 / 8 2) 10 奈良育英OB

▽30頁4段目　全日体大×桜丘会戦テーブルの13MTを14MTに訂正。

▽同　愛知紡×明善ク戦のST数愛30、明34、7MT数愛0、明1を追加

▽31頁　第11回全日本総合選手権スコアのうち、前・後半の得点（　）内の部分が次のように判明

□男子1回戦

天城高OB 12 (6 6 / 3 8) 11 住化菊本

豊陵会 15（5—4／10—7）11 福岡ク
山口ク 27（10—2／17—1）3 水俣ク
全教大 15（9—1／6—3）4 済々黌OB
西南ク 26（11—3／15—3）6 鹿児島工高
桜丘会 32（17—2／15—3）5 玉名高OB

□女子1回戦

愛知紡 19（11—1／8—2）3 菊池農蚕高
寝屋川ク 9（5—4／4—1）5 南筑高
熊本ク 13（5—0／8—2）2 梅花ク
八条ク 8（6—1／2—2）3 水俣高

▽31頁4段目 愛知紡×熊本ク戦 愛知紡メンバー大田を太田に訂正

▽48頁3段目 全立大×大崎電気 芝浦工大×大阪イーグルスの2試合は重複のため削除。

▽49頁1段目 芝浦工大×大崎電気戦のスコアを20—17に訂正。

▽62頁4段目 第5回関学×日本は日体の誤り。

▽63頁5段目 立石電機×大崎電気戦のスコアを17—7に訂正。

▽65頁2段目 稲沢×太田二高戦のスコア戦は12—8(稲沢の勝ち)

▽67頁1段目 第16回全日本高校選手権男子決勝は

桜台（愛知） 18（12—6／6—8）14 名城大付（愛知）

桜台は2年連続9度目の優勝の誤り。

▽史上最初の高校チームの海外遠征である。昭和37年8月の韓国派遣メンバーをぜひ、というご希望がありましたので40年12月の沖縄遠征メンバーと併せて掲載いたします(21、24頁関連)

【韓国遠征全日本高校選抜軍（昭和37年8月29日〜9月8日）】▽団長 菅是敬（高体連ハンドボール部長）▽監督 徳永陸繁▽継務 山田計▽コーチ 稲石三二▽マネジャー 清水正▽GK 尾形譲（神代）、牧邦弘（中京商）▽FP 青沼正義(室蘭商)、大槻雅夫（石岡一）、渡辺正（清水市商)、多田稔(兵庫工)、余吾東洋民（新居浜工)、八重柏明（古川工)、坂口学(桐生工)、氷見修(小杉)、小川安人(桜台)、木野実(寝屋川)、飯端寿昭(三国丘)、矢島芳弘(小倉工)村田久（宇部工)

【沖縄遠征全日本高校選抜軍（昭和40年12月23日〜41年1月2日)】▽団長 村山寛（高体連ハンドボール部副部長）▽総務 徳永陸繁▽マネジャー 岡前義春▽男子監督 嶋田新太郎▽女子監督 小袋是郎▽男子コーチ 砂長誠▽女子コーチ 中出盛雄▽男子GK 南一夫(佐野工)、入沢久（清水市商）▽FP 白川則雄(函館有斗)池田正則(仙台一)、関勝之(氷見)高橋一夫(麻生)、雨宮孝(塩山商)金子進(浦和市商)、鈴木博隆（中京商)、有本充（名城大付)、堤本和秀(和歌山商)、井上亮一(明石)藤中憲二(岩国工)、塩崎信治（新居浜工)、榊崇（大分商)▽女子GK 中下伊津子(山陽女)、小川恵子（栃木女)▽FP 沢田順子(室蘭商)、熊谷佑子（盛岡二)、定塚隆子(高岡女)、小島晴美(名女商)山口レイ子(明善)、垂水秀代（菊池農)、小林八重子（静岡城北)、中務千草(梅花学園)、古川美重子(豊中)、浅井喜美子(山陽女)、黒木芙美子(新居浜西)、綱川千枝子(栃木女)、山口みさ子(笠間)。

▽日本ハンドボール史上、二つの世界選手権代表が、受けいれ側の事情で遠征をはたせなかった。

【第5回世界男子11人制選手権代表選手団名簿】▽団長 式場隆三郎(日本協会々長)▽副団長 出口林次郎▽監督 高嶋冽▽コーチ松本重雄▽マネジャー 加藤祐策▽研究視察員 徳永陸繁▽GK北川勇喜(日体大出)、今野邦彦（芝浦工大）▽バックス 井薫（中大)、高森孝一（芝浦工大出)、堀勑、斉藤一(ともに日体大出)、深江幸次郎(関学)、東嘉伸(日体大)▽FW 近藤金博(芝浦工大出)、浅野克彦(日体大出)、高村武彦（関大)、浅野崇（明大)、竹野奉昭(日体大)、山田幸男(芝浦工大)、村中明朗（関学)

【第4回世界女子7人制選手権代表選手団名簿】▽団長 田村正衛(日本協会評議員)▽監督 小袋是郎▽コーチ 鈴木義男▽コーチ兼マネジャー 井薫▽GK 渡辺美智子(田村紡)、小原名苗（大洋デパート）川崎幸子(大崎電気)▽FP 種村好子、小林五子、水谷秀子、渡辺好子、清水一子、長谷川邦子、甲村加代子(以上田村紡)、加藤井子、早川清美、鈴木功子（以上大崎電気)、新保郁子、垂水秀代(以上大洋デパート)、蓮見二三恵（三菱鉛筆)

□……古い記録・資料を集める難しさが、刊行後にむしろ判りました。

人間の記憶力など、かなり曖昧で、あのように一冊にまとめてしまうと、仮に間違っていたり、疑問に感じられても「ああそうだったかな」と、押しつけてしまう面があるのです。

□……どうか、お暇な時にもういちど読者の皆さんが活躍されていた時代や、大会の部分を見なおして下さい。

正しい球史を将来編むためにも、誤りを是非ご指摘願いたいのです。

また、このような大会があった記録があったという新しいデータの提供も期待します。

□……例えば、福岡の日野博さんから、第3回国体（73頁）でも学生男子が行われ、高専男子の部という種別もあったハズと教えていただきました。

『学生男子は、明大、教大などを主力とした関東選抜と大阪歯大が対戦(スコア不明)、高専の決勝は日体（関東、東京）12—5大阪工専（関西、大阪)』。

この記録など、日本体協発行の「第3回国体報告書」にもまったく掲載されていず、貴重な情報でした。詳細を調査中です。

□……清水市で行われた第8回全日本総合（29頁）の1回戦空白部分を静岡協会の片瀬喜代次さんが県内はもとより、名古屋まで足をのばして探して下さいました。

このほか、多くのかたのご協力をいただいています。

日本協会では、いよいよ「日本ハンドボール史」の編さんにとりかかります。今後ともよろしく。

（編集委）

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一五二号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五二年四月二十五日印刷 昭和五二年五月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
渋谷区神南一ー一ー一
代表(467)七〇九七
振替 東京五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
特価三百五十円
(年間購読料三千二百円)